第二條　雇人受宿ハ左ノ雛形ノ看板ヲ製シ警察署ノ檢印ヲ受ケ之ヲ店頭ニ掲ケ置クヘシ

二尺

ヤヤ

雇人受宿

何國何郡何町
何區何村何番屋敷

氏名

第三條　警察署所轄内ノ轉住及改名ノトキハ看板書換第一條ノ手續ヲ以テ届出更ニ檢印ヲ受クヘシ

但廢業ノトキハ本條ニ準シ看板ノ消印ヲ受クヘシ

第四條　警察署所轄外ノ轉住及代替ノトキハ新規營業ヲ願出同時ニ看板ノ檢印又ハ其消印ヲ受クルモノトス

第五條　左ノ各項ニ觸ルヽモノハ營業ヲ許可セス

但營業許可ノ後ト雖モ第二項以下ニ觸ルヽトキハ該免許ノ効ヲ失フヘシ此場合ニ於テハ速ニ看板ノ消印ヲ受クヘキモノトス

一　戸主ニ非サル者

二　二十年未滿ノ戸主ニシテ後見人ナキ者

三　土地家屋等ノ不動産ヲ有セサル者

四　盜罪詐欺取財略取誘招ノ罪ヲ犯シ處斷ヲ受ケ又ハ公權褫奪若クハ停止中ノモノ

第六條　雇人受宿ハ旅籠屋ヲ兼業スルハ勿論雇人タラ

ントスルモノト雖モ宿泊セシムルヲ許サス

第七條　雇人ハ身元詳ニシテ父兄等ノ承諾ヲ受クルカ若クハ本縣管内居住ノ慥ナル保証人アルニ非サレハ口入ヲナスヘカラス

第八條　懷姙及癲癇等ノ者ヲ隱蔽シテ口入ヲナス可ラス

第九條　雇人ト馴合ヒ或ハ之ヲ欺キ屢々雇主ヲ轉換セシメ手數料ヲ貪ル等ノ行アルヘカラス

第十條　雇人タラントスルモノニシテ不審ノ舉動アルモノハ速ニ警察官吏ニ密告スヘシ

第十一條　手數料ハ給金高ノ一割以内（無給金ノ類ハ適宜）ト定メ雇主雇人双方ヨリ五分宛申受クヘキモノトス

但本條ノ外種々ノ名義ニ托シ金員ヲ貪ル等ノ行アルヘカラス

第十二條　雇期限中雇主及ヒ雇人ノ都合ニ依リ解雇ノ節給金下渡及返却又ハ手數料償ヒ方等ハ他日紛議ナキ樣雇主雇人ノ間ニ豫テ契約致サセ置クヘシ

第十三條　口入シタル雇人逃亡其他雇主ノ迷惑トナルヘキ所爲アルトキハ受宿主其責ニ任スヘシ

但廢業スルモ口入シタル雇人ノ期限中ハ仝業者ヘ委任スルカ又ハ雇主ノ承諾ヲ得ルニアラサレハ其

責ヲ免カルヽヲ得ス

第十四條　口入シタル雇人滿期後引續キ雇主ト相對ヲ以テ雇ハルヽ等ノ場合ニ於テハ受宿主之ニ關渉スヘカラス

第十五條　受宿主ハ第二號雛形ノ雇人名簿ヲ製シ三年間保存スヘシ

但本條ノ名簿ヲ一見センヿヲ乞フ者アルトキハ之ヲ拒ムヘカラス

第十六條　前條名簿ハ口入シタル都度記載スルハ勿論異動アル毎ニ更正シテ調査ノ用ニ供スヘキモノトス

第十七條　受宿ハ所轄警察署又ハ分署ノ區域ニ從ヒ適宜組合ヲ設ケ正副取締各一名（副取締ハ便宜置カサルモ妨ケナシ）ヲ撰擧シ該警察署又ハ分署ヘ届出認可ヲ受クヘシ

但營業者寡少ノ場所ニ於テハ警察署又ハ分署ノ認可ヲ得テ組合ヲ結ハサルヿヲ得

第十八條　取締ハ組合營業上ノ願届ニ連署シ其他諸事ノ取締ヲナシ違反者ナカラシムルヲ要ス

第十九條　取締ハ組合營業者ノ名簿ヲ製シ其住所氏名及開廢業ノ年月日ヲ記シ改名代替轉住等アル毎ニ加除訂正スヘシ

第二十條　組合營業者規約ヲ設クルトキハ所轄警察署ニ
　　屆出認可ヲ受クヘシ
　　但分署所轄内ノモノハ該署ヲ經由スヘシ
第二十一條　組合取締ニ關スル費用ハ協議ヲ以テ收支
　　スルモノトス
第二十二條　營業上ニ付テハ家屬雇人ノ所爲ト雖モ營
　　業主其責ニ任スヘシ
第二十三條　此規則ニ違背シタルモノハ違警罪ヲ以テ
　　罰セラルヽノ外六ケ月以内營業ヲ停止シ又ハ營業ヲ
　　禁止スルヿアルヘシ

第壹號　書式

雇人受宿營業願

何府縣何郡何區何町何村何番屋敷居住（寄留）
士族（平民）　氏名　年齡

右ハ今般御規則ヲ遵守シ雇人受宿營業仕度ニ付御許可被成下度此段奉願候也

年月日

右　氏名　印

受知縣何警察署　御中

取締（副取締）　氏名印

前書願之趣雇人受宿取締規則第五條各項ニ抵觸ノ廉無之ニ付奥書致候也

年月日

第二號　雛形

何郡區第何組

戸長　氏名印

雇人名簿

布達類聚　五百三十

第　何　號

產所	何國何郡（區）何町（村）何番屋敷	身分職業	士族（平民）何々職
住所	何國何郡（區）何町（村）何番屋敷	氏名	何ノ某
		年齡	何年何ヶ月
雇主ノ住所身分職業氏名	何國何郡（區）何町（村）何番屋敷士族（平民）何々職何ノ某		
雇期	自何年何月何日至何年何月何日何ヶ月		
給金高	金何ノ圓		
記事	一何年何月何日滿期ニ付解雇 一何年何月何日何々ニ付解雇 一何年何月何日病死又ハ逃亡其他何々		

記載例

一　番號ハ一年毎ニ改ムヘシ

二　雇主ヲ換ヘ又ハ期限ヲ繼續スルトキハ更ニ調製スヘシ

三　雇人及雇主ノ住所移轉ノトキハ從前ノ住所及氏名等ハ朱ニテ塗抹シ改メテ記入スヘシ

甲第百貳拾八號

明治十七年十二月廿日

料理屋取締規則別紙ノ通創定ス

但從前營業ノ者モ本則ニ從ヒ更ニ願出ヘシ

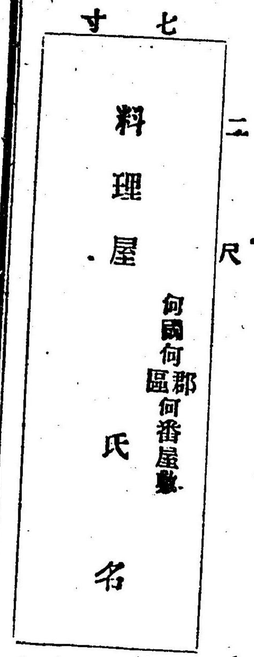
右布達候事

料理屋取締規則

第一條　料理屋ノ營業ヲナサントスルモノハ別紙書式ニ從ヒ所轄警察署ヘ願出免許ヲ受クヘシ

但分署所轄内ノモノハ該署ヲ經由スヘシ

第二條　料理屋ハ左ノ雛形ノ看板ヲ製シ警察署ノ檢印ヲ受ケ之ヲ店頭ニ掲ケ置クヘシ



第三條　警察署所轄內ノ轉住及改名ノトキハ看板書換第一條ノ手續ヲ以テ屆出更ニ檢印ヲ受クヘシ

但廢業ノトキハ本條ニ準シ看板ノ消印ヲ受クヘシ

第四條　警察署所轄外ノ轉住及代替ノトキハ新規營業ヲ願出同時ニ看板ノ檢印又ハ其消印ヲ受クルモノトス

第五條　身元慥ナラサル雇人ヲ使用スヘカラス

第六條　料理ハ每一種ノ代價ヲ塗板等ニ列記シ置キ來客ニ差出シ其好ニ應スヘシ

但一人前（各種ヲ合セタル料理）若干ト豫定シアルカ如キハ本條ノ手續ヲナスニ及ハス

第七條　來客ノ依賴アルモ之ヲ宿泊セシムル等ノ「アルヘカラス

第八條　藝妓ヲ同居寄留若クハ宿泊セシムヘカラス

第九條　旅籠屋ヲ兼業スルモノハ來客ノ依賴アルト否トニ拘ハラス藝娼妓ヲ招クヘカラス

第十條　雇女等ヲシテ藝妓ニ紛ハシキ所業ハ勿論猥褻ニ渉ル等ノ「アラシムヘカラス

第十一條　來客ノ求メサル飲食物ハ勿論腐敗ニ傾キタル物ヲ出スヘカラス

第十二條　來客ノ遺留品之ナキ樣篤ク注意スヘシ

但若シ持主不明ノ遺留品アルトキハ速ニ所轄警察署分署又ハ交番所ニ届出ヘシ

第十三條　乘車ノ周旋ヲナストキハ警察署ニ於テ認可シタル定額外ノ賃錢ヲ請求セシムル等ノフアルヘカラス

第十四條　來客中不審ノ擧動アリト認ムルトキハ速ニ警察官吏ニ密告スヘシ

第十五條　夜間十二時后ハ歌舞音曲ハ勿論喧噪セサル樣注意スヘシ

第十六條　魚鳥ノ骨腸及洗汁ハ不潔ナラサル樣始末ヲ爲シ便所等ハ時々掃除スヘシ

第十七條　警察官吏ニ於テ來客其他取調ヲ要スル事件アルトキハ何時タリトモ之ヲ拒ムヲ得ス

第十八條　酒肴料等ノ抵償トシテ着衣其他ノ物品ヲ受取ルヘカラス若シ止ムヲ得サル場合アルトキハ警察署分署又ハ交番所ニ申出其承認ヲ受クヘシ

第十九條　料理屋ハ所轄警察署又ハ分署ノ區域ニ從ヒ適宜組合ヲ設ケ正副取締各一名（副取締ハ便宜置カサルモ妨ケナシ）ヲ撰擧シ該警察署又ハ分署ヘ屆出認可ヲ受クヘシ

但營業者寡少ノ場所ニ於テハ警察署又ハ分署ノ認

可ヲ得テ組合ヲ結ハサルヿヲ得

第二十條　取締ハ組合營業者ノ名簿ヲ製シ其住所氏名及開廢業ノ年月日ヲ記シ改名代替轉住等アル毎ニ加除訂正スヘシ

第二十一條　取締ハ組合營業上ニ關スル願屆ニ連署シ且諸事ノ取締ヲナシ違反者ナカラシムルヲ要ス

第二十二條　組合營業者規約ヲ設クルトキハ所轄警察署ヘ屆出認可ヲ受クヘシ

但分署所轄内ノモノハ該署ヲ經由スヘシ

第二十三條　組合取締ニ關スル費用ハ協議ヲ以テ收支スルモノトス

第二十四條　此規則ニ違背シタルモノハ違警罪ヲ以テ罰セラルヘシ

書式

料理屋營業願

何府縣何郡何町村何番屋敷居住（寄留）
士族（平民）
氏名
年齢

右ハ今般御規則ヲ遵守シ料理屋營業仕度ニ付御許可被

成下度此段奉願候也

年月日

右

氏　名印

取締（副取締）

氏　名印

愛知縣何警察署

御中

前書願之趣相違無之ニ付奥書致候也

年月日

何郡區第何組

戸長　氏　名印

甲第百三拾號　明治十七年十二月廿日

藝妓取締規則別紙之通創定ス

但從前營業ノ者モ本則ニ從ヒ更ニ願出同時ニ從前ノ鑑札ヲ返納スヘシ

右布達候事

（別紙）

藝妓營業取締規則

第一條　藝妓ノ營業ヲ爲サントスルモノハ別紙書式ニ從ヒ營業地所轄警察署ヘ願出免許鑑札ヲ受クヘシ

但分署所轄内ノ者ハ該署ヲ經由スヘシ

第二條　警察署所轄内ノ轉住及改名並本籍若クハ寄留先戸主ノ改名代替等ノトキハ前條ノ手續ヲ以テ届出鑑札ノ書換ヲ請フヘシ

但廢業ノトキハ本條ニ準レ鑑札ヲ返納スヘシ

第三條　警察署所轄外ヘ轉住ノトキハ新規營業ヲ願出同時ニ鑑札ヲ返納スルモノトス

第四條　鑑札ハ貸借スルヲ許サス若シ遺失等ノトキハ第一條ノ手續ニ依リ届出更ニ下付ヲ請フヘシ

第五條　藝妓ハ旅籠屋及料理屋ニ同居若クハ寄留スルヲ得ス

第六條　客ノ招キニ應スルトキハ必ス鑑札ヲ携帶スヘシ

第七條　客ノ誘引ニ依ルモ濫リニ他家ニ宿泊シ若クハ旅籠屋ニ至リ賣藝スヘカラス

第八條　居宅ニ客ヲ延キ若クハ宿泊セシメ又ハ料理屋ニ紛ハシキ所業アルヘカラス

第九條　賣藝ハ夜間十二時ヲ限リトス

第十條　此規則ニ違背シタルモノハ違警罪ヲ以テ罰セラルヽノ外六ケ月以内營業ヲ停止シ又ハ營業ヲ禁止スルヿアルヘシ

書式

藝妓營業願

何府縣何國何郡何區何町何村何番屋敷士族平民
何某長次女(當時何府縣何國何郡何區何町何村何番屋敷何某方寄留)藝名何々
氏名
年齢

右ハ今般御規則ヲ遵守シ藝妓營業仕度ニ付御許可被成下度親属連署ヲ以テ此段奉願候也

年月日

右
氏名印

何府縣何國何郡何區何町何村何番屋敷士族平民
親属
氏名印

愛知縣何警察署
御中

前書願之趣相違無之ニ付奥書致候也

何郡區第何組
戸長氏
(營業地戸長ニ限ル)
名印

年月日

甲第百三拾貳號

明治十七年十二月二十日

墓地及埋葬取締細則別紙ノ通相定ム

但明治十三年甲第五拾九號布達火葬場設立手續書同年甲第貳百拾號布達埋葬火葬規則ハ廢止ス

右布達候事

（別紙）

墓地及埋葬取締細則

第一條　墓地及火葬場ハ從前許可シタルモノニ限ル

第二條　墓地ハ種族宗旨ヲ別タス其町村ニ本籍ヲ有シ若クハ其町村ニ於テ死シタルモノハ何人ニヲモ之ニ葬ルヿヲ得其從前別段ノ習慣アルモノハ此限ニアラス

但死刑ニ處セラレタル者ハ墓地ノ一隅ヲ區劃シテ其内ニ埋葬スルモノトス

第三條　墓地ノ周圍（墓地ト墓地ニ非サル地トノ境界ヲ云フ）ニハ樹木ヲ栽ユヘシ墓地ノ内ニハ一丈以上ノ樹木塀墻ヲ存スヘカラサルモノトス

但從前ヨリ現存スルモノハ此限ニアラス

第四條　壙穴ノ深サハ六尺以上タルヘシ若シ土地ニ依リ六尺ニ至リ難キモノ及ヒ火葬ノ遺骨ヲ埋藏スルモノハ格別ナルヘトス

第五條　火葬場ハ火爐煙筒ヲ備ヘ臭煙ヲ防クノ裝置ヲナシ且周圍ニ塀墻ヲ設クヘシ

但山林原野等ニシテ人家ヲ隔タル場所ナルトキハ格別ナリトス

第六條　火葬ハ成ルヘク日沒後之ヲ行フヘシ

第七條　墓地火葬場ハ清潔ヲ旨トシ掃除及修繕ヲ怠ルヘカラス

但火葬シタル灰燼ハ散亂セサル樣妨害ナキ地ニ埋沒スヘシ

第八條　墓地火葬場ニハ必ス管理者ヲ置クヘシ

但管理者ハ其住所氏名ヲ戸長役場ニ届出ヘシ

第九條　死屍ヲ埋葬又ハ火葬セント欲スルモノハ自家ノ届書ニ左ノ種別ノ書面ヲ添ヘテ戸長ノ認許証ヲ受ケ之ヲ管理者ニ差出スヘシ

第一項　主治醫ノ死亡届書

第二項　醫師ノ治療ヲ受クルノ猶豫ナクシテ死亡シタルモノハ醫師ノ檢案書

第三項　妊娠四ヶ月以上ノ死胎ニ係ルトキハ醫師若クハ産婆ノ死産証書

第四項　變死ニ係ルトキハ檢視官ノ檢印ヲ受ケタル醫

帥ノ檢案書

第五項　囚徒ノ死屍ハ病死若クハ死刑ニ處セラレタル司獄官ノ証明書

第十條　改葬セント欲スルモノハ第一號書式ニ準シ原墓地所轄警察署（分署所轄内ノモノハ該署ヲ經由）ニ願出許可証ヲ受ケ之ヲ管理者ニ差出スヘシ

但警察官吏ニ於テ臨檢スルヿアルヘシ

第十一條　管理者ニ於テ認許証又ハ許可証ヲ受ケタルトキハ其都度該証書ノ裏面ニ第二號雛形ノ如ク執行ノ年月日時ヲ記入シ署名捺印スヘシ

第十二條　管理者ハ前條ノ認許証又ハ許可証ヲ編纂シテ毎三ヶ月所轄警察署又ハ分署ノ檢閲ヲ受ケ之ヲ墓地又ハ火葬場所在地ノ戸長役場ヘ差出スヘシ

第十三條　管理者ハ第三號第四號雛形ニ準シ墓地又ハ火葬場ノ繪圖及第五號書式ノ墓籍ヲ調製シ置クヘシ

但繪圖ハ其一葉ヲ所轄警察署又ハ分署ニ差出スヘシ

第十四條　誌銘傳贊等ヲ刻シタル碑表ヲ建設セント欲スルモノハ第六號書式ニ準シ所轄警察署（分署所轄内ノ者ハ該署ヲ經由）ニ願出許可ヲ受クヘシ

但死者ノ氏名族籍官位勳爵法號及生死ノ年月日建立者ノ氏名ノミヲ記シタル墓標ハ本條ノ限ニアラス

第十五條　濫リニ墓標ノ位置ヲ變換シ又ハ之ヲ取除クヿアルヘカラス

第十六條　止ムヲ得サル事情アリテ墓地ヲ取廣メ又ハ墓地火葬場ヲ新設スル場合ニ於テハ第七號ノ書式ニ準シ所轄警察署又ハ分署ヲ經テ縣廳ヘ願出ヘシ

第十七條　墓地ヲ新設スルハ國道縣道鐵道大川ニ沿ハス人家ヲ隔ルコト凡ソ六十間以上ニシテ土地高燥飲用水ニ障ナキ地ヲ撰ムヘシ

第十八條　火葬場ヲ新設スルハ人家及人民輻輳ノ地ヲ隔ル凡ソ百二十間以上ニ位セサル地ヲ撰ムヘシ

第十九條　此細則ニ違背シタルモノハ違警罪ヲ以テ罰セラルヘシ

第一號

改葬願

何郡區何町村何番屋敷某
（父母繼男女兄弟姉妹或ハ何々）

何年何月何日何々病ニテ死亡(死產)
何郡區何町村(何寺境内)墓地ニ埋葬

職業
氏名 死產ハ(何月何日男女死產)ト記スヘシ
年齡

右ハ今般何々改葬ヘキ事由ヲ詳細記載スヘシ事由ニ依リ何郡區何町村(何寺境内)墓地ヘ改葬仕度依テ御許可被成下度親戚(親戚アラサルモノハ隣保)連署ヲ以テ此段奉願候也

年月日

何郡區何町村何番屋敷身分
氏名印
何郡區何町村何番屋敷身分
親戚又ハ隣保 氏名印

布達類聚

受知縣何警察署
御中

前書願之趣相違無之ニ付奥書致候也

何郡區第何組
戸長 氏名印

第貳號

認許証
許可証　裏面雛形

何年何月何日何時（埋火葬）葬執行

何郡何町何區何村何番地墓地（火葬場）
管理者　氏名印

四寸五分

五寸五分

第五號

明治何年何月調

墓籍

何郡何町（寺境内）
區何村

第壹號
坪數何拾何坪何尺
何郡區何町村何番屋敷何縣士族平民
所有主 何ノ誰

第貳號
坪數、、、、、、
何、、、、、、、、
所有主 何、、

第三號
坪數、、、、、、
何、、、、、、、、
所有主 何、、

第四號
坪數、、、、、、
死刑ニ處セヲレタル者ノ理葬地

第六號

碑表建設願

何郡區何町村何番屋敷某
（父母幾男女兄弟姉妹或ハ何々）
何年何月何日死亡
氏名

右ハ何々（建設スヘキ事由ヲ詳記スヘシ）ニ依リ今般何郡區何町村（何寺）墓地又ハ何々地ニ同人ノ碑表建設仕度依テ碑文草按及履歴書幷該表圖面トモ相添此段奉願候也

何郡區何町村何番屋敷身分
氏名印

年月日

墓地外ヘ建設スル件ハ

何郡區何町村何番屋敷身分

地主　氏　名　印

愛知縣何警察署

御　中

前書願之趣相違無之ニ付奥書致候也

何郡區第何組

戸長　氏　名　印

年　月　日

碑文草按

一、、、、、、、、、

右起草者

何郡區何町村何番屋敷身分

氏　名

履歴書

一何々詳細記載スルヲ要ス

碑表圖面

一茲ニ圖面ヲ記載スヘシ

第七號

墓地火葬場(新設)(墓地取廣)願

何郡區何町村何字何番

田畑山林原野反別若干ノ内…取廣メ願ニハ本項ニ若クヘシ

墓地火葬場何拾何坪　壹ケ所

右ハ從來使用致來候處墓地狹隘ニ付何拾何坪取廣メ度

（今般何々新設スヘキ理由ヲ詳細記載シ且埋葬場ハ通常用及傳染病用ト區別シ火葬場ハ通常並ニ傳染病併用ト記載スヘシ）ニ付本縣

墓地及埋葬取締細則ヲ遵守シ前書ノ場所ニ墓地火葬場新設致

度）候間御許可被成下度圖面相添此段奉願候也

何郡區何町村惣代

何郡區何町村何番屋敷身分

年月日　氏名印

何、、、

愛知縣令氏名殿　何、、、、、氏名印

前書願之趣相違無之ニ付奥書致候也

何郡區第何組

年月日　戸長氏名印

年月日　何郡區長氏名印

甲第百三十三號　明治十七年十二月十九日

明治十六年當縣甲第四十四號布達違警罪罰則中左ノ通

削除追加ス

第三号

何郡区何町村字何番（何寺境内）

一墓地何拾何坪

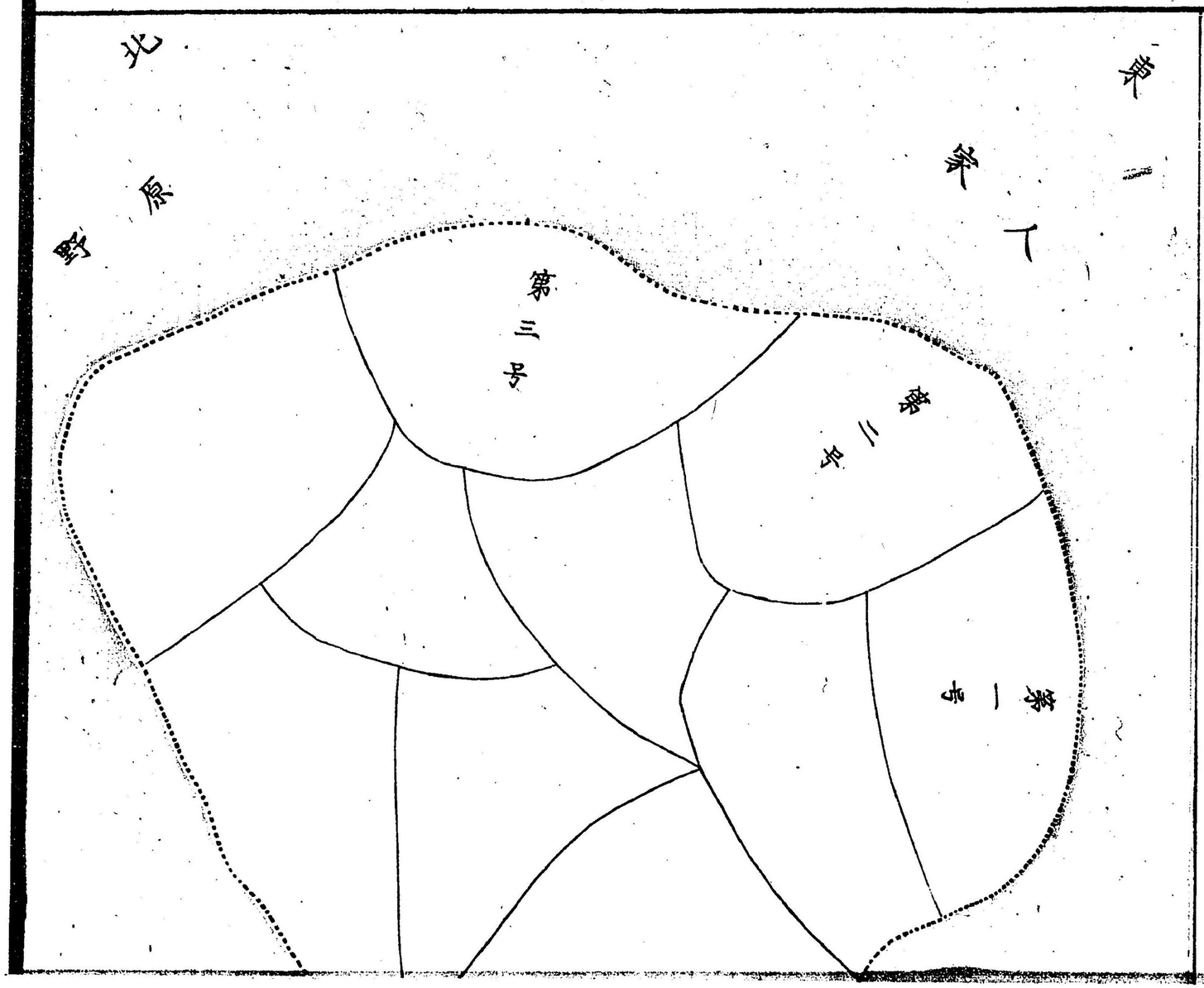
一道路又ハ大川ノ距離何拾何間

一人家ノ距離何拾何間

一通常又ハ傳染病用

何国何郡区何町村何番

管理



第三号

何郡区町村字何番（何寺境内）

一墓地何拾何坪

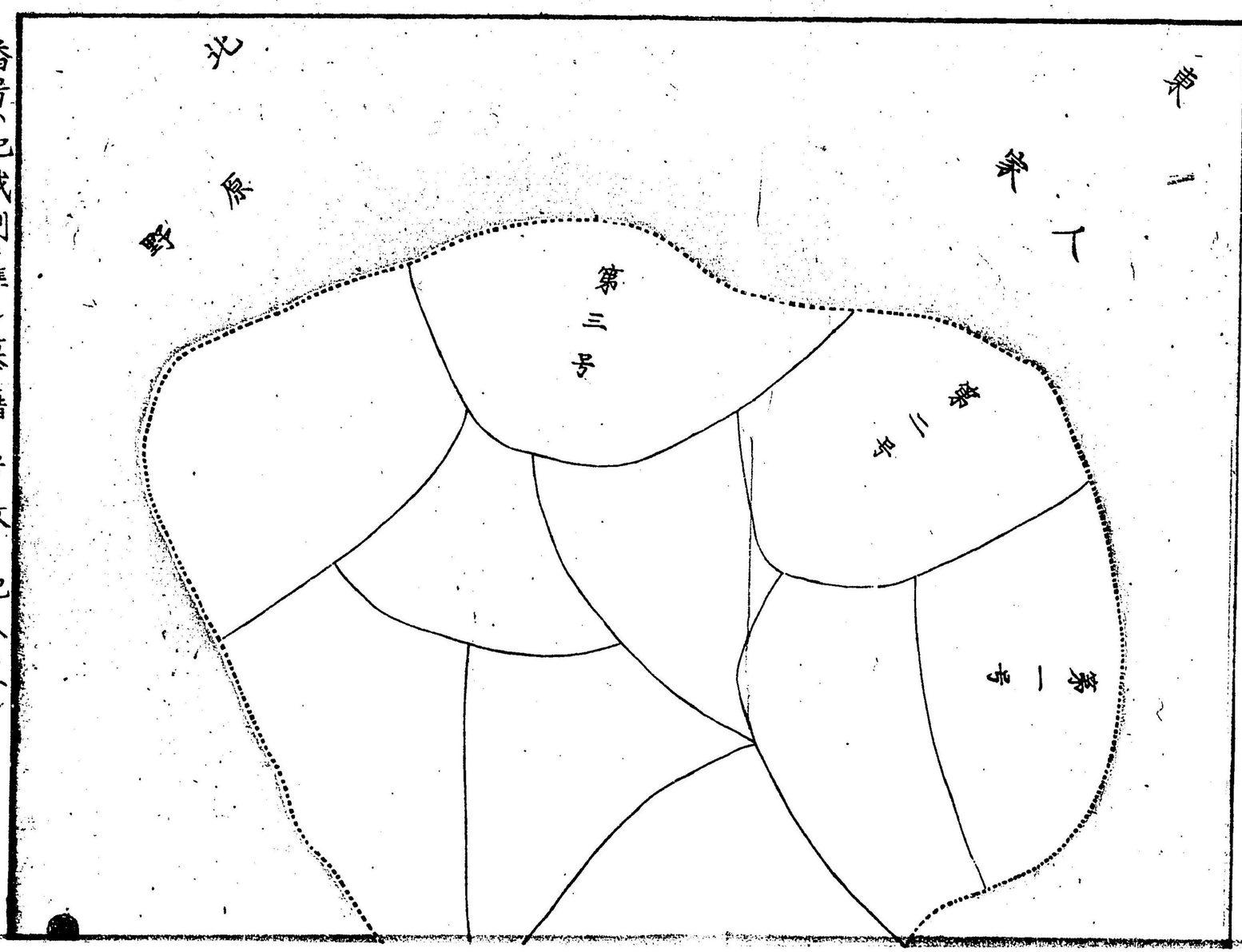
一道路又ハ大川ノ距離何拾何間

一人家ノ距離何拾何間

一通常又ハ傳染病用

何国何郡区何町村何番

管理



番号ハ記載例ニ準シ墓籍ノ号数ヲ記入スヘシ

何町村字何番（何寺境内）

地何拾何坪

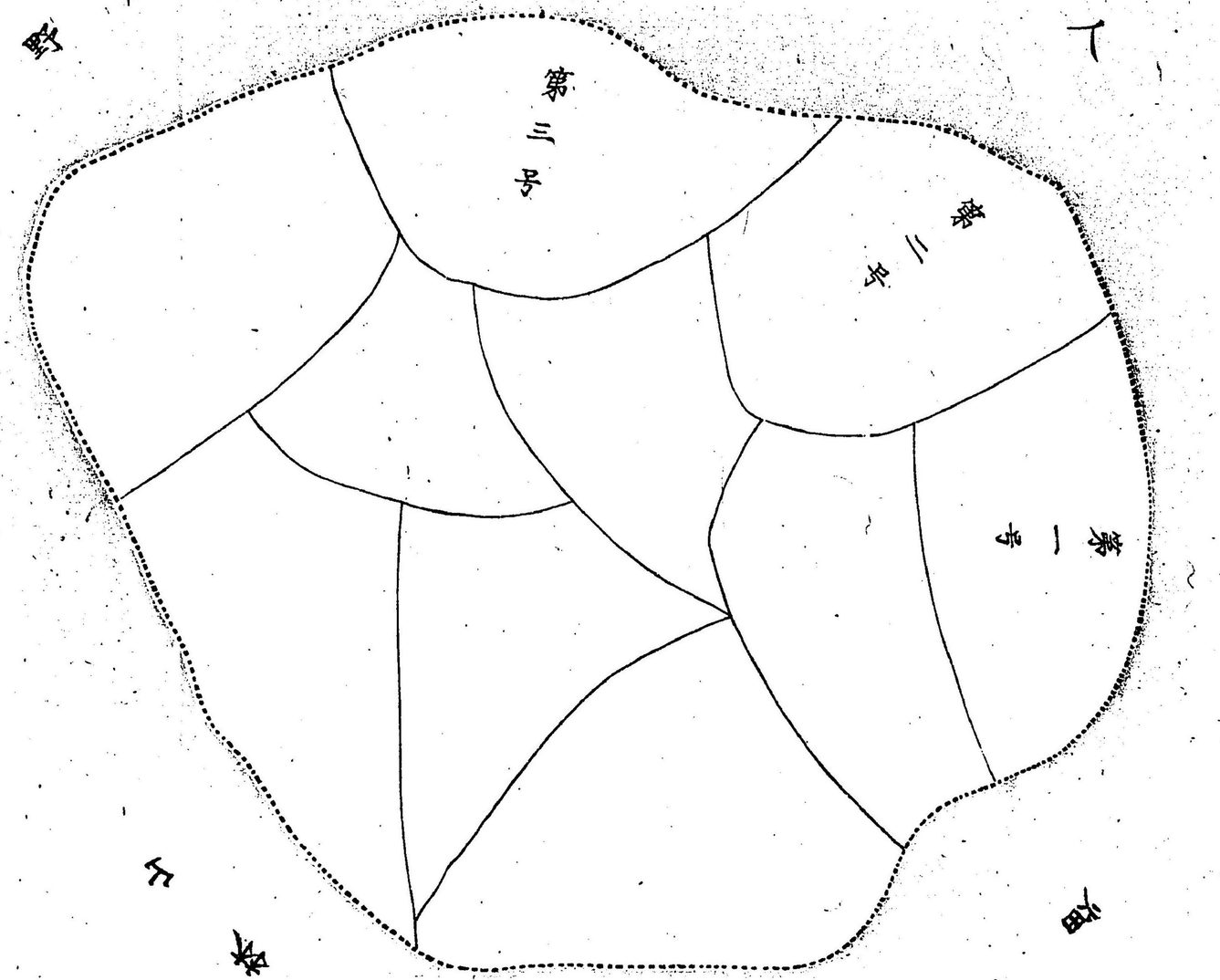
路又ハ大川ノ距離何拾何間

家ノ距離何拾何間

常又ハ傳染病用

何国何郡何区何町何村何番屋敷 士族 平民

管理者氏名



何町村字何番（何寺境内）

何国何郡何町何村何番屋敷（士族平民）

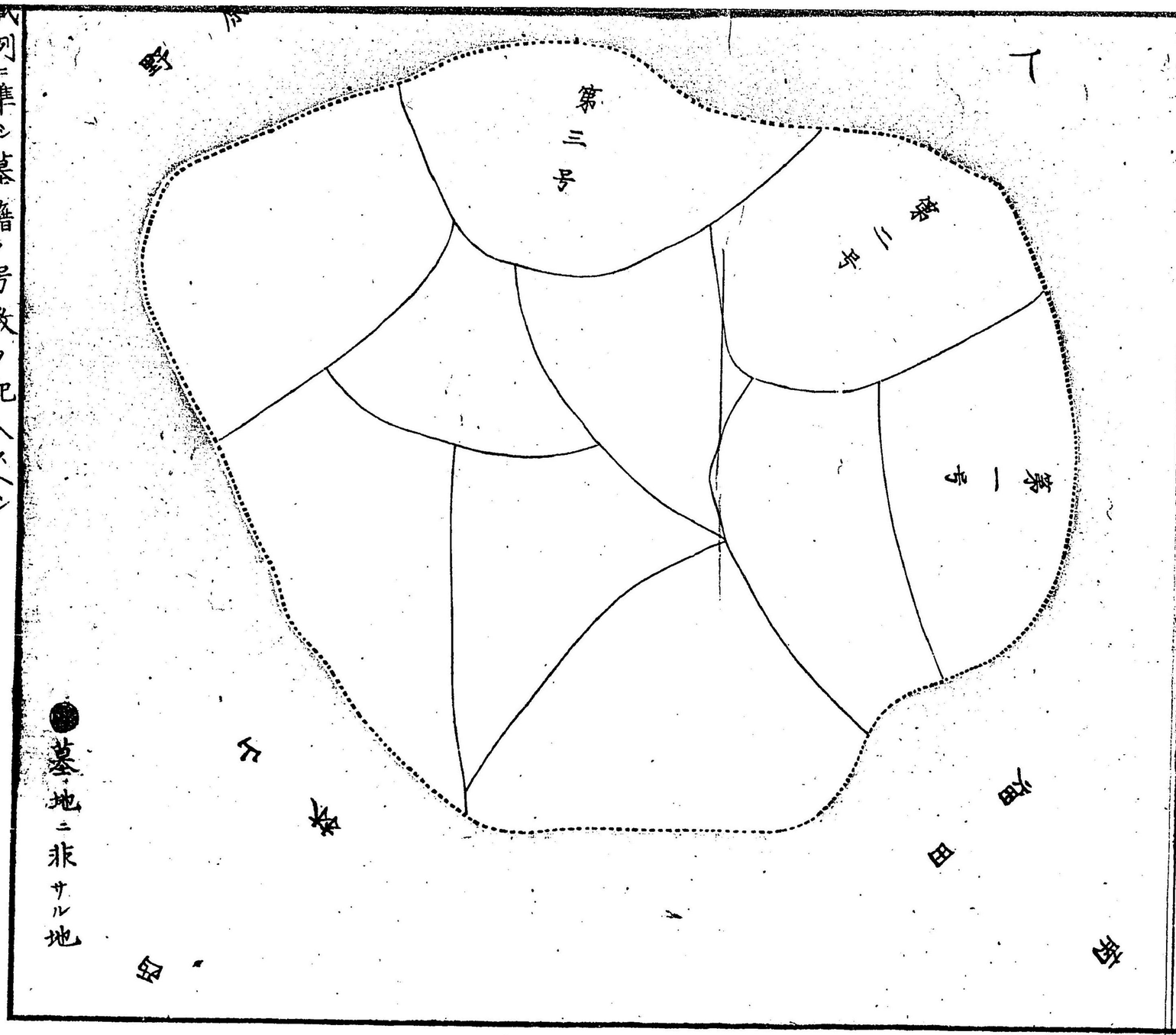
地何拾何坪

管理者氏名

路又ハ大川ノ距離何拾何間

家ノ距離何拾何間

常又ハ傳染病用



墓籍ノ号数ヲ記入スヘシ

第四号

何郡何町村字何番區

一火葬場敷地何拾何坪

一仝建物何拾何坪

一人家距離何拾何間

一道路距離何拾何間

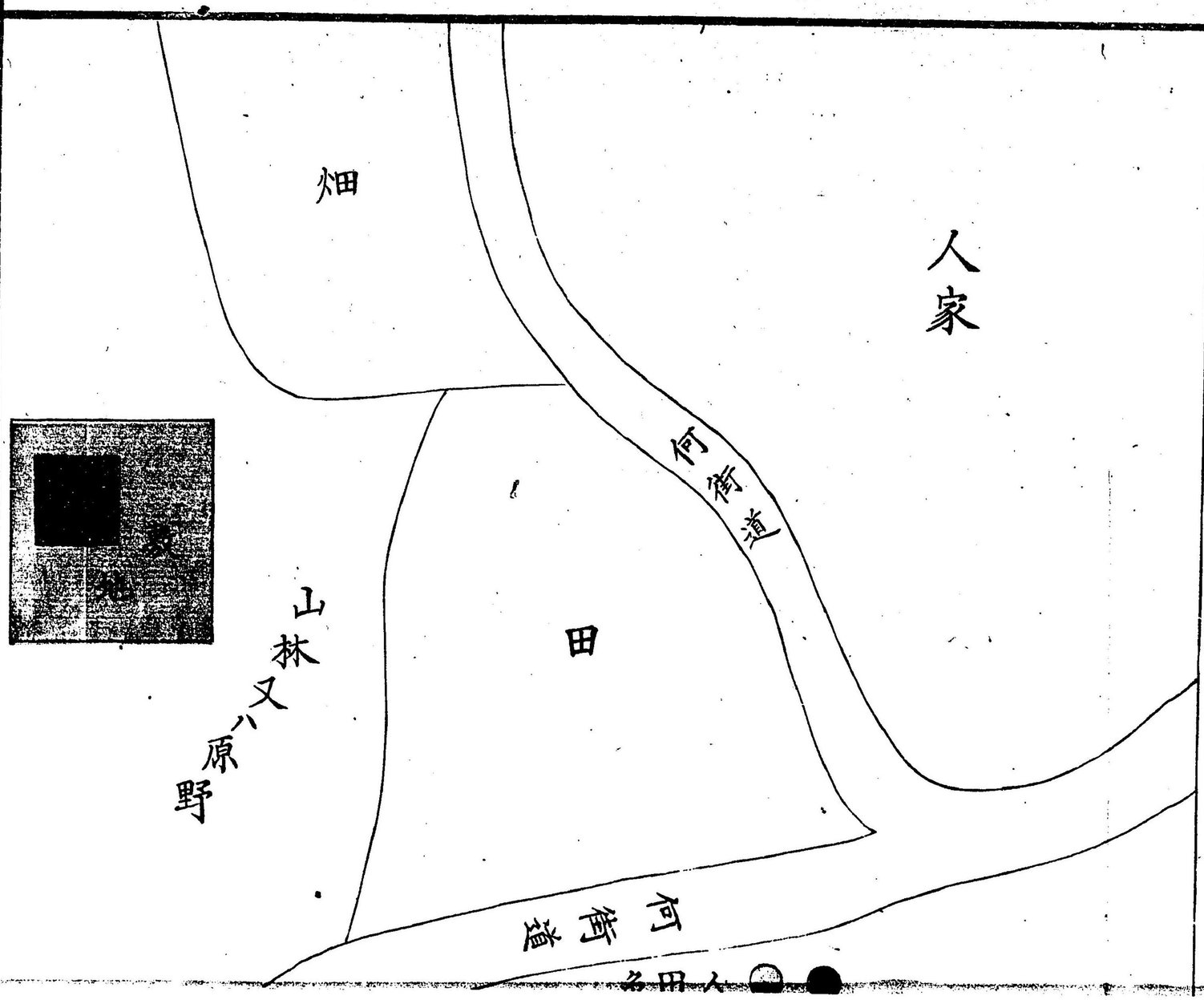
一火爐ノ敷何個

通常並傳染病併用

何國何郡何町村何番屋敷

士族
平民

管理者



第四号

何郡何町村字何番

一火葬場敷地何拾何坪

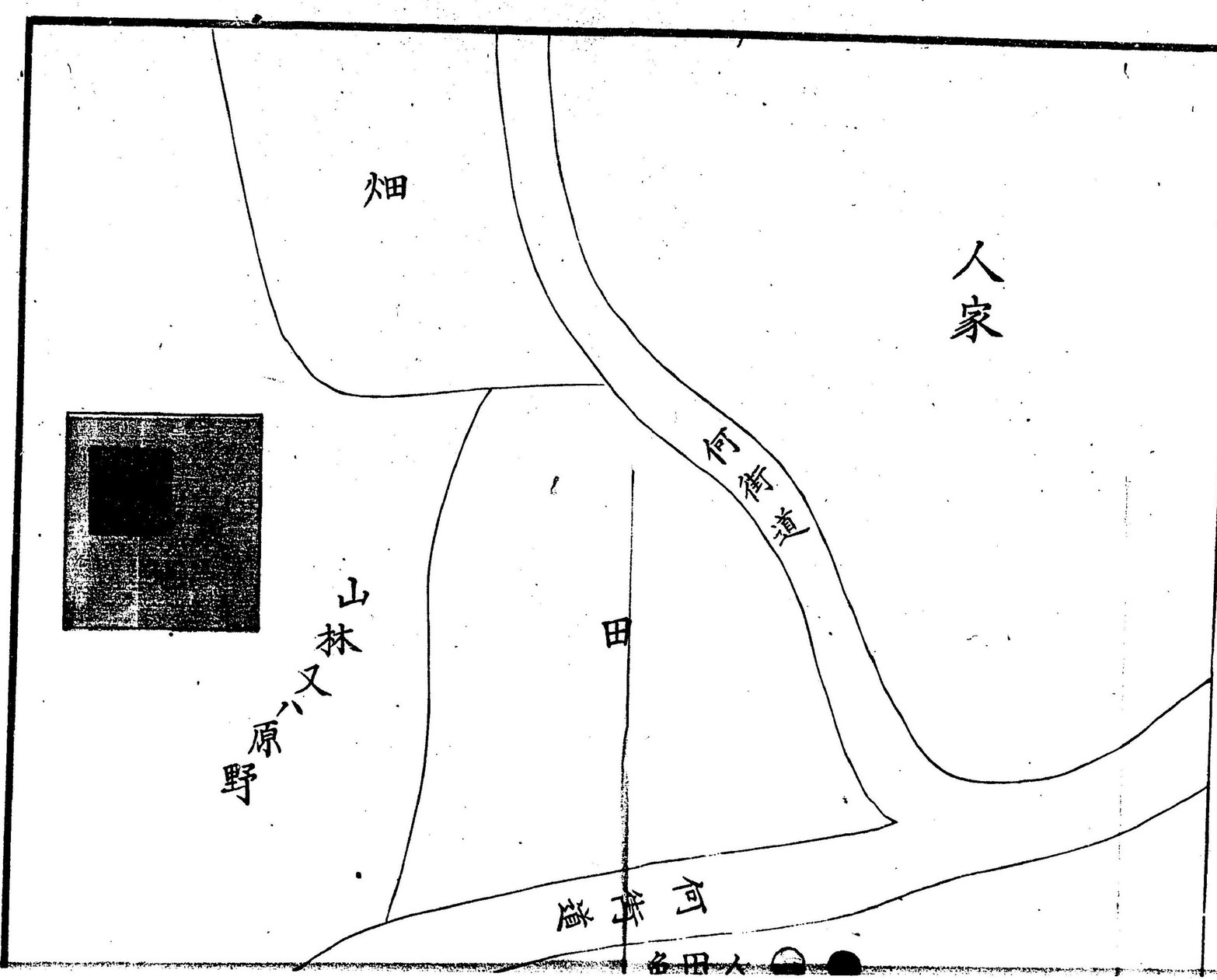
一仝建物何拾何坪

一人家距離何拾何間

一道路距離何拾何間

一火爐ノ敷何個

通常並傳染病併用



何國何郡何町何番屋敷

管理者

字何番
場敷地何拾何坪
建物何拾何坪
距離何拾何間
距離何拾何間
敷何個
並傳染病併用

何國何郡何區何村町何番屋敷 士族 平民

管理者氏名

人家

何街道

田

山林又ハ原野

何街道

● 火葬場建物

◎ 仝 敷地

人家山林又ハ原野田畑道路等適宜色分ケヲナスヘシ

字何番

場敷地何拾何坪
建物何拾何坪

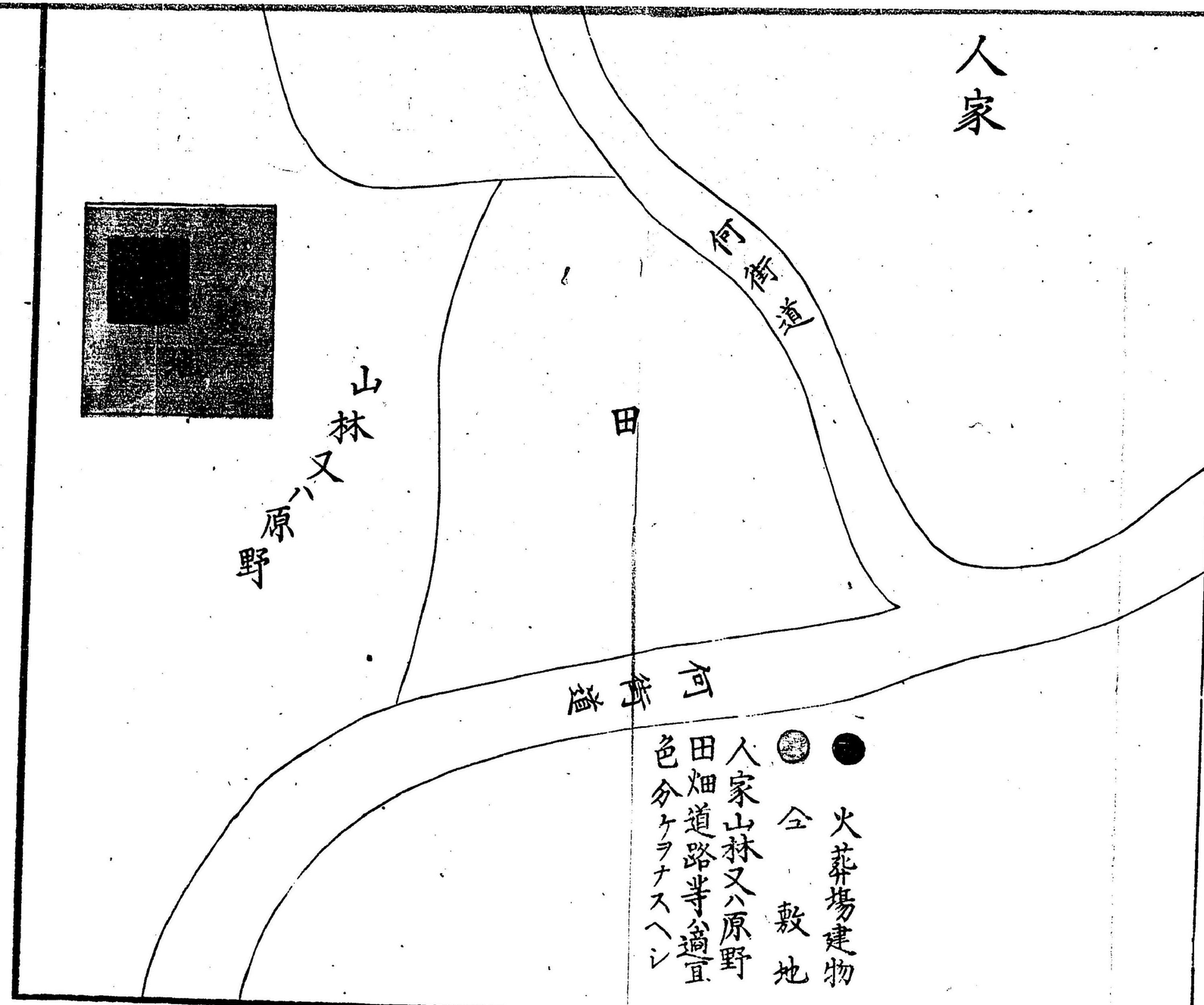
家距離何拾何間
距離何拾何間

ノ敷何個

並傳染病併用

何國何郡何町何村何番屋敷 士族 平民

管理者氏名



但第一條第二項ヲ第一項トシ第二條第廿六項ヲ第廿五項トシ以下順次繰上トス

第一條　第一項削除

第一條　第廿六項追加

一墓地反埋葬取締規則並當縣同細則ニ違背シタル者

第一條　第廿七項追加

一當縣藝妓取締規則ニ違背シタル者

第二條　第廿五項削除

右布達候事

乙第三號　明治十七年一月十二日

郡區役所
戸長役場

富山縣下ノ者當縣下於テ貸座敷及藝娼妓營業出願ノ者ハ本籍所轄郡役所ノ承認書所持可致答ニ付右所持ノ者ニ限リ許可致ス可ク此旨相達候事

乙第七號　明治十七年一月十七日

郡區役所
戸長役場

當縣下ノ者根室縣下ニ寄留シ貸座敷藝妓娼妓ノ業ヲ營ントスルモノハ本籍警察署又ハ郡役所若クハ戸長役場

ノ添翰ナクテハ營業許可致サス且同縣在籍ノ者當管下ヘ寄留シ仝上ノ營業ヲナサントスル者ハ所轄郡役所又ハ戸長役場ノ添翰附與スヘキ筈ニ付該翰携帶セサルモノハ營業許可不致樣該縣ヨリ照會有之候條右樣可取計此旨相達候事

乙第三拾六號　　明治十七年二月十五日

郡區役所
戸長役場

本年第一號布告賭博犯處分規則ニヨリ處斷ヲ受タル者アルトキハ其旨該警察署ヨリ所轄戸長役場ヘ通達致サセ候條役場ニ於テハ刑法既決犯人ノ通知アリタル節ト同樣取扱フヘシ此旨相達候事

乙第五十四号　　明治十七年三月十一日

郡區役所
戸長役場

嚴手縣巡査在職之者病氣療養幷親看病ノ爲暇ヲ乞フニ方リ戸長ノ證明書ヲ求ムルモノアラハ其事實相違無キヲ視認メ附與致スヘシ此旨相達候事

乙第五十八號　　明治十七年三月十七日

郡區役所

靜岡縣下ノ者他府縣下ニ於テ藝妓營業ヲナサントスル者自今所屬郡役所ノ添翰付與候筈ニ付右領知相成度旨同縣ヨリ照會有之候條爲心得此旨相達候事

明治十七年三月廿八日　郡區役所

乙第六十三號

長崎縣下人民ニシテ他府縣ニ於テ藝妓營業ヲ爲サントスルモノハ所轄警察署又ハ分署ヘ願出テ添翰ヲ受クヘク旨管下ヘ及布達置候條右了知相成度旨同縣ヨリ照會有之候條爲心得此旨相達候事

明治十七年四月四日　郡區役所

乙第六十四號

當縣下ノ者青森縣下ニ於テ貸座敷並藝娼妓營業ヲ爲サントスルトキハ本管官衙ノ添翰ヲ以願出ヘク又同縣下ノ者當縣下ニ於テ同業ヲ營マントスルトキハ所轄警察署ニ於テ添翰ヲ付與スヘキ筈ニ付右添翰ヲ携帶セス營業出願スル者ハ許可不相成樣致度旨該縣ヨリ照會有之候條右樣可取計此旨相達候事

明治十七年四月廿九日　郡區役所

乙第七十七號

戸長役場

當縣在籍ノ者警視廳巡査志願候際本人ニ關スル身分證書附與方之儀該廳ヨリ照會有之候條向後出願ノ者有之ハ事實調査ノ上左ノ雛形ニ倣ヒ附與可致此旨相達候事

（雛形）

身分證書式

何縣何郡何町何村何番地籍族
（戸主又ハ三三男養子）何某

何年何ヶ月

生年月日　年号干支何年何月何日生

布達類聚　五百五十

兵役　有無　アル時ハ徴兵適齢又ハ予備後備等ノ兵籍ヲ記スヘシ

罰科　仝　アル時ハ其罪名等ヲ記スヘシ

身代限　仝　アル時ハ其義務ヲ終ヘタルヤ否ヲ記スヘシ

右何　某實印

年　月　日

右之通相違無之ニ付奥印候也

年　月　日　何縣何郡區何町村戸長何某印

乙第八十四号　明治十七年五月七日

郡區役所

當縣下ノ者宮城千葉両縣下ニ於テ貸座敷及娼妓營業ヲ爲サントスル者ハ本管官衙ノ添翰ヲ以テ出願セサレハ

許可致サヽル旨該縣ヨリ照會有之候條添翰ノ義ハ自今其役所ニ於テ可取計此旨相達候事

明治十七年五月七日

郡區役所

乙第八十五號

當縣下ノ者千葉縣下ニ於テ藝妓營業セントスルヤハ本管本衙ノ添翰無之モノハ許可不相成且該縣下ノ者當管下ニ於テ仝上ノ業ヲ爲サントスルモノニシテ所管郡役所ノ添翰ヲ携帶セサルモノハ許可セサル樣致度旨該縣ヨリ照會有之候條爲心得此旨相達候事

明治十七年五月十二日

乙第八十九號

郡區役所

戸長役場

本年第一號布告ニ依リ處分シタル賭博犯懲罰人之儀左之通心得ヘシ此旨相達候事

一懲罰ニ處シタル者徴兵年齡ニ相當スル時ハ右懲罰ノ處分滿期ニ至リ召募ニ應セシムル事

一懲罰ニ處シタル者ハ公權ヲ停止スル限リニアラスト雖モ懲罰限内勳章ヲ佩用シ及ヒ後見人管財人若クハ共有財産ノ管理人ト爲ル等ノコトヲ得セシメサル事

一府縣會ノ議員タル者賭博ノ所爲アリ懲罰ニ處シタル

時ハ其議員タル資格ヲ失ハスト雖モ議場ニ參列スルヲ許サヽルハ勿論撰擧被撰擧權ヲ有スル者モ懲罰限内ハ之ヲ行ハシメサル事

明治十七年六月六日　郡區役所

乙第百七號

高知縣下ノモノ他府縣ニ於テ貸座敷及ヒ藝娼妓營業ヲ爲サントスルモノハ所轄郡役所ノ添翰ヲ付與可致答ニ付當縣人民ニシテ同縣下ニ於テ同業ヲ爲サントスルモノモ所轄官衙ノ添翰ヲ付與相成度旨同縣ヨリ照會ニ付右樣可取計此旨相達候事

明治十七年六月廿一日　郡區役所　戸長役場

乙第百十四号

根室縣巡査休暇旅行中天災時變疾病又ハ通路塗塞之爲メ日限内ニ帰着スルヿ能ハサルヤハ其事由ヲ記載シタル書面（疾病ハ醫員診斷書ヲ添ユ）ヲ警察署又ハ郡區戸長ノ證印ヲ受クヘキ旨相達候ニ付若其警察署及分署若クハ郡區役所戸長役場ヘ申出候者有之候ハヽ事由取調證印附與相成度旨該縣ヨリ照會ニ付右申出ノ者有之ヤハ事實調査ノ上證印附與可致此旨相達候事

乙第百四十五號

明治十七年八月八日

郡區役所
戸長役場

静岡縣於テ巡査歸省墓參願手續相定メタル趣ヲ以テ別記ノ事項申出ノ者ヘ証明若クハ檢印附與相成度旨該縣ヨリ照會有之候條自然右申出ノ者アルトキハ事實調査ノ上戸長役場於テ証明若クハ檢印附與スヘシ
此旨相達候事

（別記）

一父母疾病ニ罹リ皈省セントスル者ハ醫師ノ診斷書若クハ親族ノ報知書ニ所属戸長ノ証明書ヲ添付スヘシ
但電報ハ所属戸長ノ發シタルモノニ限ルヘシ

一皈省願濟該地ニ到着セシトキハ月日ヲ明記シ所属戸長ノ檢印ヲ受ケヘシ

一皈省日限滿シトスルニ際シ父母死去シ滯在セントスルトキハ所属戸長ノ証明書ヲ受ケ届出ヘシ

乙第百六十三號

明治十七年九月十三日

郡區役所
戸長役場

山梨縣巡査奉職ノ者歸省若クハ旅行中疾病其他天災等

意外ノ障碍ニ依リ止ヲ得ス滯在候節ハ戸長ノ證書請求候儀モ可有之旨同縣ヨリ照會有之候條右申出ノ者有之トキハ事實取調ノ上證書付與可致此旨相達候事

乙第百八十六號　　明治十七年十月廿四日

郡區役所
戸長役場

根室縣巡査奉職ノ者父母ノ看病歸省等ヲ願出ル者電報ヲ以テスルトキハ所轄區戸長ノ發シタルモノニアラサレハ許可セサル旨該縣ヨリ照會有之候條右申出ノ者有之候ハヽ本人所屬ノ警察署ヘ宛電報スヘシ此旨相達候事

乙第二百十七號　　明治十七年十二月廿二日

郡區役所
戸長役場

埋葬火葬取扱心得別紙之通リ相定メ候條此旨相達候事

埋葬火葬取扱心得

第一條　戸長ニ於テ墓地及埋葬取締細則第八條ノ届ヲ受ケタルトキハ該管理者ノ名簿ヲ製シ之ヲ保存スヘシ

第二條　戸長ニ於テ認許証ノ請求ヲ受ケタルトキハ細則第九條ノ届書証書ヲ領収シタル上審査ヲ遂ケ第一號雛形ノ如キ埋葬若シクハ火葬ノ認許証ヲ下付スヘシ

但届書証書ノ具備セサルモノハ認許証ヲ與フヘカラス

第三條　戸長ハ前條ノ届書証書ヲ一ケ月毎ニ取纏メ翌月十日限リ郡區役所ヘ差出ヘシ

第四條　墓地又ハ火葬場所在地戸長ニ於テ細則第十二條ノ認許証幷許可証ヲ受ケタルトキハ之ヲ取纏メテ後証ニ供スヘシ

第五條　郡區役所ニ於テハ第二號雛形ノ如ク郡區ノ毎半年葬儀人員表ヲ製シ二月八月廿日限リ縣廳ヘ差出スヘシ

第六條　認許証ハ郡區役所ニ於テ調製シ鍵メ戸長ヘ交付シ置クヘシ

但該費用ハ原價ヲ以テ請求者ヨリ取立ヘシ

第一號　　縱四寸五分　　横五寸五分　　用紙千質

表面

何郡何町村番地某
（父母幾男女兄弟姉妹或ハ何々）
職業
氏名　死産ハ（何月何日男女死産）ト記スベシ
明治何年何月何日何時死亡死産　年齢
火葬埋葬認許證
年月日下付
何郡區第何組
戸長氏名印

裏面

何年何月何日何時火葬埋葬執行
何郡區何町村何番地墓地火葬場
管理者氏名印

布達類聚　五百五十六

第貳號
何郡區葬儀人員表
明治　年自　月至　月

月記	埋葬人員	死産埋葬	火葬人員	死産火葬	合計 埋火葬人員	合計 死産埋火葬	改葬人員
男女ノ別							
男							
女							
男							
女							
男							
女							
男							
女							
男							
女							
男							
女							
總計 合							

附言　改葬人員ノ欄内火葬ニ改メシ員數ハ表中朱ニテ記入スヘシ○遺骨ノ改葬ハ表中記入ノ外尚ホ其數ヲ欄外ニ詳記スヘシ○死産ノ改葬モ表中記入ノ外其數ヲ欄外ニ記載スヘシ

甲号外

明治十七年七月九日

名古屋區

名古屋區消防規則別紙之通創定ス

右布達候事

（別紙）

名古屋區消防規則

第一章　總則

第一條　名古屋區内ニ消防組ヲ設ケ之ヲ東西南北ノ四組トス

第二條　消防組ハ警察本署ニ於テ之ヲ總括シ名古屋警察署ニ於テ之ヲ指揮ス

第三條　名古屋警察署ハ出火アレハ迅速火元町名並ニ其姓名ヲ（姓名判然セサレハ屋号若クハ通稱）警察署前及各交番所前ニ掲示ス

第四條　消防ハ名古屋區内ヲ限ルト雖モ大火等ニ際シテハ臨時區外ニ出張セシムルヿアルヘシ

第五條　名古屋警察署ハ毎年二回一月七月各組ヲ招集シ署前ニ整列セシメ其鑑札並ニ被服器械ヲ點檢シ便宜ノ場所ニ於テ喞筒ノ演習ヲ爲サシム

但招集日時ハ警察署ヨリ通達ス

第二章　編制

第六條

指揮長	壹名	名古屋警察署長ヲ以テ之ニ充ツ
指揮長附屬	三名	仝署巡査ヲ以テ之ニ充ツ
右仝組ノ指揮ヲ掌ル		
指揮役	壹名	名古屋警察署警部又ハ警部補ヲ以テ之ニ充ツ
指揮役附屬	壹名	仝署巡査ヲ以テ之ニ充ツ
喞筒係	貳名	仝
管鎗係	貳名	仝
水係	三名	仝
毀係	三名	仝

右一組ノ指揮ヲ掌ル

第七條

小頭	壹名	
副小頭	壹名	
纏持	壹名	肝煎消防夫

喞筒　肝煎消防夫　貳名
片手桶持　肝煎消防夫　八名
階子持　肝煎消防夫　壹名
斧持　肝煎消防夫　十五名
長鳶口持　肝煎消防夫　四壹名
刺扠持　消防夫　貳名
籠長持　消防夫　六名

右壹組ノ係リ分ケトス

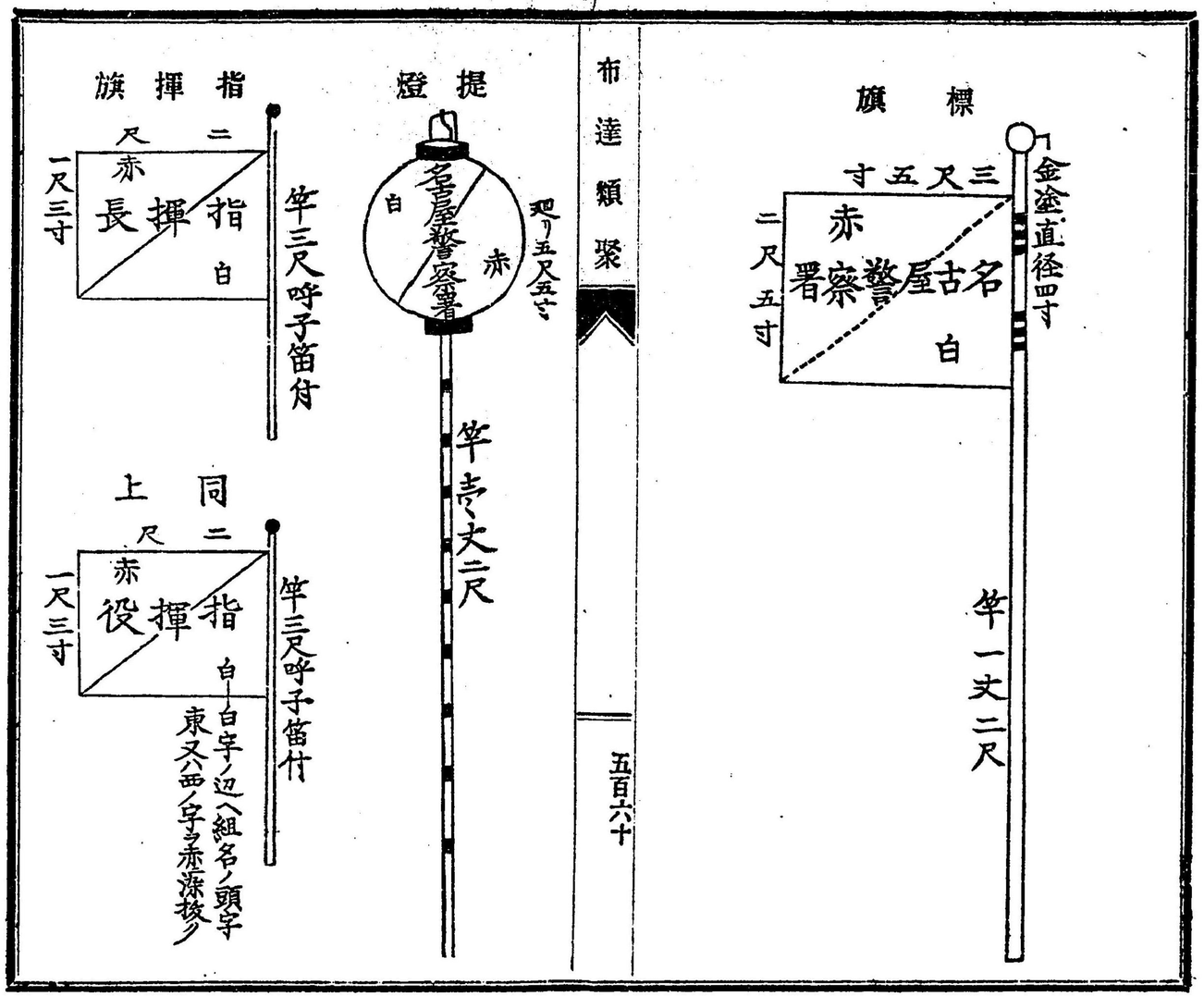
第八條　小頭副小頭肝煎消防夫ハ左ノ區域内居住ノ男子ニシテ年齢二十歳以上四十歳以下ノ强壯者ヲ採用ス

但小頭副小頭ニ限リ四十歳以上ト雖モ採用スルヿアルヘシ

東組ハ　武平町通以東一圓
西組ハ　堀川通以西一圓
南組ハ　堀川以東武平町以西　榮町通以南一圓
北組ハ　堀川以東武平町以西　榮町通以北一圓

第三章　徽章並被服器械

第九條　指揮長ノ標旗提灯並指揮長以下ノ指揮旗肩印ハ左ノ如シ


標旗
三尺五寸
二尺五寸
金塗直徑四寸
赤
名古屋警察署
白
竿一丈二尺
提燈
名古屋警察署
白
赤
廻り五尺五寸
竿壹丈二尺
指揮旗
二尺
一尺三寸
赤
長揮
指
白
竿三尺呼子笛付
同
上
二尺
一尺三寸
赤
役揮
指
白
白字ノ辺ハ組名ノ頭字
東又ハ西ノ字ヲ赤染抜ノ
竿三尺呼子笛付

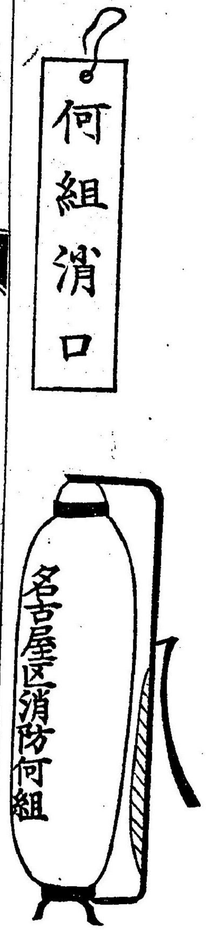
第十條

小頭以下被服及徽章ハ左ノ如シ

但被服ハ各自常ニ所持スルモノトス

肩印	附屬	一寸五分ト	指揮長	白地	三寸五分ト
	附屬	一寸五分ト	指揮役	白地	三寸五分ト
	哨筒係	一寸五分ト	東	赤地	三寸五分ト
	管鎗係	一寸五分ト	西	赤地	三寸五分ト
	水係	一寸五分ト	南	白地	三寸五分ト
	蹤係	一寸五分ト	北	赤白染分ケ	三寸五分ト
頭巾	半纏小紋	同背印	同襟印	股引	
小頭	紺地ニ白區ノ字繋キ前ニ組印付	紺地腰ニ區ノ字繋キ	丸ノ内白地文字紺	消防方三字ノ上ニ横筋四本	紺無地
鼠小頭	同上	同上	同上	同上三本	鼠紺棒竪縞
肝煎	無地紺面ニ組印付	紺地ニ中形區ノ字小紋	丸ノ内赤地文字紺	同上二本	白紺棒竪縞
消防夫	同上	紺地ニ大形區ノ字小紋	同上	同上一本	同上

第十一條　一組ノ器械ハ左ノ如シ



纏　一本
高張提燈一本
喞筒　一臺
階子　一挺
刺叉　一挺
斧　二挺
長鳶口六挺
片手桶十五箇
籠長持一箇
附屬品　錨一箇　釣瓶四箇　釣瓶繩二筋　鋸二挺
蜘手鍵付　引繩一筋　消口札二十枚

右ノ外小頭副小頭肝煎ノ所持スヘキ弓張提燈九箇肝煎ノ所持スヘキ小鳶口七箇ヲ備フ

第十二條　前條器械中纒高張提灯階子喞筒籠長持ノ五種ハ北組ハ名古屋警察署ヘ南組ハ門前町交番所ヘ西組ハ五條橋交番所ヘ東組ハ東田町交番所ヘ備ヘ置キ其他ハ各自常ニ所持スルモノトス

第四章　信號

第十三條　火ノ見ノ位置ハ左ノ如シ

名古屋警察署
傳馬町交番所
武平町交番所
五條橋交番所
押切町交番所
納屋橋交番所
門前町交番所
常盤町交番所
古渡町交番所
春日町交番所
東田町交番所
清水町交番所

出來町交番所
大曾根町交番所

第十四條　出火信號半鐘ノ打方ハ左ノ如シ

知ラセ
○○　○○
出方
○○○○　○○
鎭火
○○○○　○○○○
○　○　○　○

第十五條　各組引場ケノ呼子ハ左ノ例ニ從フ

第一ノ呼子ニテ消防ヲ止ム
第二ノ呼子ニテ鑑札ヲ點檢ス
第三ノ呼子ニテ退散ス

第五章　賞罰并吊祭扶助

第十六條　小頭以下出火場ニ於テ格別盡力其功著明ナルモノハ特ニ三圓以下ノ賞金ヲ下付スルヿアルヘシ

第十七條　小頭以下規則ニ背キ及不都合ノ所爲アルモノハ其情狀ニ依リ輕キハ呵責シ重キハ黜免ス

第十八條　小頭以下吊祭扶助療治料ハ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ下付ス

一吊祭料

重傷死ニ至ル者ヘ金十圓ヲ給ス親族故舊ナキモノハ戸長役場ニ付シ便宜處分セシム

一遺族扶助料

父母妻子若クハ死者ニ依リ從來生計ヲナセシモノヘ金二十圓ヨリ少カラス七十圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス

一傷痍扶助料

一等傷（終身不具トナリ自由ヲ辨スル能ハサルモノ）ヘ金四十圓ヨリ少カラス七十圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス

二等傷（終身不具トナルモ自由ヲ辨シ得ルモノ）ヘ金五圓ヨリ少カラス三十圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス

一療治料

傷痍ノ輕重ニ依リ其適度ヲ量リ之ヲ給ス

第六章　給與

第十九條　小頭以下ハ都テ年給トシ左ノ區別ニ依リ毎年六月十二月ノ兩度ニ之ヲ支給ス其解免又ハ新ニ採用セシモノハ月割ヲ以テ支給ス

小頭　年給金三圓

副小頭　仝　二圓

肝煎　全　一圓
消防夫　全　五十錢

第二十條　現場出張ノ者ハ左ノ割合ヲ以テ手當及蠟燭代ヲ支給ス

出張手當　一時間金拾錢
小頭　全　九錢
副小頭　全　七錢
肝煎　全　五錢
消防夫　全　壹錢
蠟燭代　全

右ノ外出場三時間ニ及フ毎ニ現辨當ヲ給與ス

第二十一條　整列及喇筒演習ノ爲メ招集シタルトキハ左ノ割合ヲ以テ手當ヲ支給ス

整列手當　一度金拾錢
小頭　全　九錢
副小頭　全　八錢
肝煎　全　七錢
消防夫
演習手當
肝煎　一度金廿錢

消防夫　仝　十五錢

第七章　消防組心得

第二十二條　小頭副小頭ハ常ニ肝煎以下ノ願屆ニ連署レ及諸器械ノ取締ヲ爲スヘシ

但豫シメ肝煎以下ノ係リ分ケヲ定メ指揮長ヘ屆出ヘシ

第二十三條　出方ノ信號アレハ小頭以下迅速整粧出火場ニ駈付クヘシ若シ他行先ニ在テ歸宅整粧ノ暇ナキトキハ直ニ出場其旨指揮役ヘ屆クヘシ

第二十四條　喞筒其他警察署及交番所ニ備ヘアル器械

受持ノモノハ直ニ該署所ニ趨キ之ヲ持參スヘシ

第二十五條　現場ニ於テハ都テ指揮長及指揮役以下ノ指揮ヲ受ケ決シテ持場ヲ離レ自儘ニ進退ヲ爲スヘカラス

第二十六條　現場最寄ニ親屬故舊ノ者アルモ持場ヲ離レ赴援スルヿヲ許サス

第二十七條　纒持ハ掛リ口ニ先登シ一組目標ト爲リ階子掛リ口ニ架設シ轉倒セサル樣注意スヘシ

第二十八條　延燒豫防ノ爲家屋ヲ打毀ツヿアルニ臨テハ指揮役ニ申立其指揮ヲ得テ着手スルヿヲ要ス

第二十九條　他組ノ消口ヘ消札ヲ揭クルハ勿論同組中功ヲ爭ヒ喧嘩等致スヘカラス

第三十條　濫リニ威權ヲ張リ罹災人ハ勿論諸人ノ迷惑ヲ釀スヘカラス

第三十一條　現場ニ於テハ給與スル辨當ノ外一切酒食スルヿヲ許サス

第三十二條　引揚ノ呼子アレハ速ニ組標ノ下ニ集合レ鑑札ノ點檢ヲ受クヘシ

但第二十三條後段ノ場合ヲ除ク外鑑札ヲ携帶セサル者ハ當日ノ手當ヲ支給セサルヘシ

第三十三條　病氣旅行其他不得已事故アリテ出場シ難キ者ハ預メ指揮長ヘ屆置クヘシ

第三十四條　逃亡又ハ輕罪以上ヲ犯シタルモノアルトキハ小頭副小頭ヨリ指揮長ニ屆出ヘシ

○勸業

甲第壹號　明治十七年一月廿五日

商事工事ニ關スル規約ヲ定ムルカ爲メ商工業組合ヲ設立セントスルトキハ別紙准則ニ據リ規約ヲ定メ縣廳ノ認可ヲ受クヘシ

但商工業組合規約從前經伺ノ分モ准則ニ據リ更ニ認可ヲ受クヘシ

右布達候事

（別紙）

商工業組合設立准則

第一條　營業者相親睦シテ營業ノ進歩ヲ圖リ世間ノ信用ヲ堅クセンカ爲メ其規約ヲ定メ營業組合ヲ設立スルヲ得

第二條　組合中頭取幹事ヲ置ク其撰擧法ハ組合中ヨリ投票ヲ以テ公撰シ其姓名ハ戸長及ヒ郡區長ヲ經テ縣廳ニ屆ヘシ

第三條　頭取幹事ノ任期及改撰其他組合申合規約等ハ頭取ヨリ戸長及郡區長ヲ經テ縣廳ノ認可ヲ受クヘシ

第四條　組合中ニハ其同組タルノ證ヲ頭取ヨリ配當スルモノトス

第五條　組合中ノ姓名ハ名簿ヲ作リ戸長及郡區長ヲ經テ縣廳ニ差出スヘシ

第六條　組合申合規約設置ノ後新ニ加入ヲ乞フ者又ハ組合中ノ者轉居轉業或ハ死亡家督相續等ハ頭取ニ於テ之ヲ取纏メ六月十二月兩度戸長及郡區長ヲ經テ縣

廳ニ屆出ヘシ

第七條　郡區所轄ヲ異ニスト雖トモ地方接近等ニヨリ營業便宜ノ場合ニ於テハ聯絡シテ組合ヲ設クルモ妨ナシ

第八條　組合ノ名義ヲ毀傷シ世間ノ信用ヲ缺クカ如キ處爲アル者ハ頭取ニ於テ厚ク之ヲ說諭シ尙悛悟セサルトキハ衆議ニヨリ之ヲ除名スルヲ得此場合ニ於テハ戶長及郡區長ヲ經テ縣廳ニ屆出ヘシ

第九條　營業上ノ利害得失ヲ講究商議センカ爲メ其組合即チ同業會又ハ各組ヲ合セタル工業會商業會等ヲ開クコトヲ得

但本條ノ場合ニ於テハ其規則ヲ設ケ戶長及郡區長ヲ經テ縣廳ニ伺出ヘシ

第十條　組合ニ關スル一切ノ費用ハ該組合中ノ負擔タルヘシ

第十一條　勸業上ノ件ニ付縣廳及郡區役所等ヨリ組合ノ意見ヲ問フコトアルヘシ

第十二條　勸業上公益ノ件ニ付組合ノ名義ヲ以テ縣廳及郡區役所等ヘ意見書ヲ差出スコトヲ得此場合ニ於テハ縣廳ニ差出スモノハ戶長及郡區長郡區役所ニ差

出スモノハ戸長ヲ經由スヘシ

第十三條　組合中營業ノ實況ハ毎年六月十二月兩度戸長及郡區長ヲ經テ縣廳ニ届出ヘシ

甲第十二號　明治十七年三月十七日

近來着色僞似ノ茶ヲ製出シ又ハ不良茶ヲ混淆シテ販賣候者有之趣右ハ正業者ノ妨害ト可相成ハ勿論人身ノ健康ニモ相關リ候儀ニ付管内ニ於テ茶業ニ從事スル者ハ左ノ茶業組合準則ニ基キ組合相立其規約ヲ定メ本年四月二十日限リ縣廳ノ認可ヲ受クヘシ

右布達候事

布達類聚

茶業組合準則

第一條　茶業ニ從事スル者ハ製造者ト販賣者トヲ問ハス郡區又ハ町村ノ區畫ニヨリ組合ヲ設置スヘシ

但シ自用茶ノミヲ製スル者ハ此限リニ非ス

第二條　組合ノ名稱ハ愛知縣下何郡何町何村何區組合ト稱スヘシ

第三條　組合ハ左ノ目的ヲ以テ規約ヲ定ムヘシ

第一項　他物若クハ惡品ヲ混淆シ或ハ着色スル等總テ不正ノ茶ハ製造賣買セサル事

第二項　乾燥法及ヒ荷造方ヲ完全ニスル事

第三項　製茶荷造ノ上ハ必ス組合ノ名稱及ヒ製造人販賣人ノ姓名ヲ記スル事

第四條　各組合ハ委員ヲ設ケ組合中ノ事務ヲ擔任セシムヘシ

第五條　組合員ハ必ス其組合ノ證票ヲ携帶スヘシ

但證票ハ別紙書式ニ據リ縣廳ノ檢印ヲ受クヘシ

第六條　組合委員ハ時々組合内ノ實況ヲ檢査スヘシ

第七條　縣下便宜ノ地ニ取締所一箇所ヲ設ケテ各組合ヲ統轄スヘシ

但シ本條ハ各組統轄ノ法ヲ主トスルヲ以テ他ニ簡便ノ方法アレハ強ヒテ取締所ヲ設ケサルモ妨ケナシ

第八條　取締所ノ役員ハ各組合ノ委員中ヨリ互撰スヘシ

第九條　組合及ヒ取締所ニ關スル費用ハ各組合員ノ協議ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第十條　右各條ノ外組合ニ於テ必要ト爲ス事項ハ適宜ニ其規約ヲ設クルヿヲ得

組合證書式

檜板ヲ用ユ
巾壹寸五分
長貳寸五分
厚サ貳分

表

第號
愛知縣下何郡區何町村茶業組合之證
○

裏

愛知縣下何郡何町何村區
姓名
○

明治十七年四月廿八日

甲第二十七號

漁獵器具及ヒ使用方法ハ魚介鳥獸ノ蕃殖上關係不尠候ニ付從來地方慣用器具ノ外發明品或ハ模造品等ヲ以テ漁獵ヲナサントスル者又ハ慣用器具タリト雖モ新規ノ漁獵法ヲ開カントスル者ハ其方法ヲ詳記シ魚漁ハ第壹號書式鳥獸獵ハ第二號書式ニ依リ某器具ノ圖面相添届出ヘシ

但時宜ニ依リ現品又ハ雛形ヲ製シ差出サシムルヿ有ル可シ

右布達候事

第一號書式

漁具使用届

一漁具名稱

發明或ハ在來何具ヲ改造シ又ハ何國慣用ノ漁具模造ニ係ル云々詳記スヘシ

一主用方法

何魚ヲ捕獲スル網罟或ハ釣具ニシテ其使用方法云々詳記スヘシ

但他魚ニ兼用スル者ハ是亦同樣詳記スヘシ

一位置

何國何郡海川ニテ使用シ或ハ他國郡海川ノ別ナク使用スル等云々詳記スヘシ

一季節

何月ヨリ何月迄凡何十日間使用シ或ハ季節ニ關セス使用スル等云々詳記スヘシ

右何々器具ヲ以テ漁業致度候ニ付此段及御届候也

年　號　月　日　　國郡區町村番地　何　某　印

縣　令　宛

戸長
郡區長　奥　書

第二號書式

獵具使用屆

一獵具名稱

發明或ハ在來何具ヲ改造又ハ何國慣用ノ獵具模造ニ係ル云々詳記スヘシ

一主用方法、

何鳥獸ヲ捕獲スル器具ニシテ其使用方法云々詳記スヘシ

但他獵ニ兼用スル者ハ是亦同樣詳記スヘシ

一位置

何國何郡何山或ハ海川池ニテ使用シ或ハ他國郡山川ノ別ナク使用スル等云々詳記スヘシ

一季節

何月ヨリ何月迄凡何十日間使用シ或ハ季節ニ關セス使用スル等云々詳記スヘシ

右何々器具ヲ以テ何獵ニ相用度候ニ付此段及御屆候也

年號月日　　國郡區町村番地　何某印

縣令宛

戶長
郡區長　奥書

甲第四十號　　明治十七年五月廿二日

産馬組合規則別紙之通相定候條該事業ニ從事スルモノハ右規則ニ基キ來ル七月三十一日限同業組合ヲ組織スヘシ

右布達候事

（別紙）

産馬同業組合規則

第一條　産馬事業ニ從事スルモノハ便宜區畫ヲ定メ同業組合ヲ設置スヘシ

但新タニ該業ニ從事セント欲スルモノハ便宜ノ組合ニ加入スヘシ

第二條　各組合ハ其事業ニ係ル規約ヲ定メ縣廳ノ認可ヲ受クヘシ

第三條　組合ノ名稱ハ何郡區何郡區何部落産馬組合ト稱スヘシ

第四條　各組合ハ頭取其他ノ役員ヲ設ケ該組合取締上ノ事ヲ擔任セシムヘシ

但役員ノ姓名ハ戸長役場及郡區役所ヲ經テ縣廳ヘ屆出ツヘシ

第五條　組合中ニハ頭取ヨリ其組合タルノ證票ヲ渡スヘシ

第六條　產馬事業上ニ付縣廳及郡區役所ヨリ其組合ノ意見ヲ詢フフアルヘシ

第七條　產馬事業上ニ付同業會ヲ開クヤハ其旨豫テ戶長役場及郡區役所ヲ經テ縣廳ヘ屆出ツヘシ

第八條　組合中營業上ノ景況ハ毎年十二月戶長役場及郡區役所ヲ經テ縣廳ヘ屆出ヘシ

明治十七年五月廿四日

甲第四十一號

明治十四年肝當縣甲第百九十七號ヲ以テ布達候農事通信規則別紙之通改訂追加ス

右布達候事

（別紙）

愛知縣農事通信規則

第一條

勸業用係（稼穡擔當）に於てハ其郡區內農事の景況と本人農事經驗の始末等と記載し之れを勸業課に通信すへし又同課に於てハ右通信中の要件を擇ひ或ハ同課の意見と加へ之を農商務省農務局に申報すへし（農務局に於ては此申報書の要件をとり或は同局の見込又は農家の參考となるへき內外の雜說を附記し全國又は關係の地方に報道あるものなり）

第二條

通信の部を分ちて臨時報月報の二種とす勸業課より農

務局への申報も亦これに同し（農務局の報告も同断なり）

第三條

臨時報とは定期通信に關せす事の急遽に係り臨時報道するものを云ふ其事項ハ凡そ左の類の如し

一氣候節を失ひ冷熱俄かに至り或ハ風雨水旱等の災によりて農産を妨るれ類

一植物の蟲害或は家畜傳染病劇烈の徴候ある類

第四條

月報とは事急遽に係らさるものを云ふ二ヶ月分を束ね毎半の月に通信すへし其事項は凡そ左に照準し能緩急

を量り時機を失せさる樣注意すへし

一各郡區内に著名れ物産ハ勿論一般農産諸植物れ生長及ひ豐凶の景況氣候風雨の適否等

但前途豐凶の見込並に平年と氣候其外比較の概略

一試驗植物類生長の景況及ひ後來其地民益となるへき見込のもれ

但舊勸農局及農務局幷勸業課より頒布の種子苗木類等も之に準す

一諸作毛の多少及盛衰の原因

一耕作の方法を改良し或ハ農具を改製し新規器械を使用して勞費を省くの類
一農業の諸試驗
一新地開墾荒地起返し等著手の方法及ひ其後の景況
一農業上に係る改良發明試驗の成蹟及ひ之に關する各地從來の慣習新設の方法
一從來棄て顧みさりし山野の遺利を拾ひ有益ナ物產を興せし事
一農業會社或ハ農業に關する男女生徒を教育する方法等の事

一養蠶製茶牧畜水產等の景況
一動植物ナ交換競賣場の景況
一現時海外輸入品に代用すへき物產の繁植或ハ新たに輸出して外國需用の適否を試みし事
一鳥獸蟲病の害都て水陸の產物に影響あるときは其の深淺及ひ驅除豫防ナ景況成蹟
一農業上に關する新古有功者の事蹟及ひ其履歷
一博覽會共進會集談會品評會農談會等ナ諸會其開閉期日及ひ出品談話ナ景況並に其影響
一肥料の種類及ひ製造需供ナ景況

一製造料動植物及ひ果樹食料に供すへき野生動植物の景況

一各種の糖業蜜蜂及ひ家禽家畜の景況

一河海湖沼の魚介苔藻獸類繁殖減耕の景況及ひ漁業盛衰の源因

以上の三項は毎年二月報道すへし

第五條

凡そ通信は勉て平易の文を用ひ虚飾失實の弊なきを要す其得失利害に關するものは尤も注意すへし

第六條

勸業課に於て此月報を點檢して事實明瞭ならさるか或ハ疑義等ありて之を質問するときハ速に其質問に應すへし又通信負擔者に於て農業上の疑義を質問せんと欲するときハ其事由を詳記して之を同課に送致すへし然るときハ同課直ちに之か答辨をなすへし此場合に於て同課の了解し難き事項ハ之を農務局に質し其事實を査究するハ同課其任に當るへし

第七條

月報の外農務局に於て別に一種の問題を設けられ之か質問あるときハ各勸業用係（稼穡擔當）に付して其答辨を徵す

へし而して勸業課於ては答辨中其要約を撮み或ハ同課れ意見を加へ右回答書を作るへし

第八條

月報中筆答にて盡し難き物質形狀等は圖畫或ハ寫眞と添へ或ハ雛形見本を以て勸業課へ送致すへし（農務局より地方に郵送ある也又同樣なり）

第九條

月報中數量比例歩合等に屬するもれは必らす表に收むへし又其名稱等各地れ方言等にて一般に通用し難きとハ傍訓或は分註を加ふへし

第十條

其報道する臨時報月報等其郡區役所を經て之を勸業課へ申報すへし

但臨時報は時宜により直に勸業課へ申報する事あるへし

第十一條

農に關する郡區役所れ布達諸規則及ひ調査書會社協會等の規則並に報告書或ハ官民一般れ著述翻譯報告書等ハ成るへく現品を郵送すへし

但著譯書等冊數浩瀚れものハ題名目錄及ひ要旨れ

ミを報ぜるも妨なし

第十二條

此通信規則は各郡區内の便否と農業進歩れ模様とによりて漸次改正增減することあるへし

明治十七年六月廿六日

甲第五十四號

本年一月甲第一號布達中(商事工事ニ關スル規約ヲ定ムルカ爲メ商工業組合ヲ)トアルヲ(營業上ニ關スル規約ヲ定ムルカ爲メ營業組合ヲ)トシ(但商工業組合規約)トアルヲ(但營業組合規約)トシ同別紙中(商工業組合設立准則)トアルヲ(營業組合設立准則)ト改正ス

右布達候事

甲第百一號

明治十七年十月廿九日

本年一月甲第壹號布達營業組合設立准則中左之通追加改正ス

右布達候事

追加

第四條ニ「但該証ハ縣廳ノ檢印ヲ受クヘシ」

改正

第六條中「頭取ニ於テ之ヲ取纒メ六月十二月両度」トアルヲ「頭取ヨリ其都度」

甲第百三十四号　明治十七年十二月二十日

本年當縣甲第十二號達茶業組合準則第十條ヲ第十四條ニ樣下ヶ左ノ四箇條追加ス

右布達候事

第十條　全國中便宜ノ地ニ中央茶業組合本部ヲ設ケ各地茶業組合取締所ノ氣脈ヲ聯通スヘシ

第十一條　中央茶業組合本部ノ規約ハ農商務卿ノ認可ヲ受クヘシ

第十二條　中央茶業組合本部ノ役員ハ各地茶業組合取締所ノ役員中ヨリ互撰スヘシ

第十三條　中央茶業組合本部ノ費用ハ各地茶業組合取締所役員ノ協議ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

乙第十六号　明治十七年一月廿三日

郡區役所
戸長役場

北海道ヘ移住士族ニ係ル師範農家移住取扱内規別紙之通取設候趣札幌縣ヨリ照會有之候條此旨相達候事

師範農家移住取扱内規

第一條　師範農家ハ左項ノ經歴アリテ士族授業ノ師範ト爲ルニ足ル者ニ限リ其移住ヲ許可スヘシ尤其制限

ハ本年壯農商務省第十四號達ニヨルモノトス

一農家ニ成長シテ年來現業ニ從事シ農業ニ篤志ノ者

一耕種及培養法ニ通曉スル者

第二條　志願者ハ別紙書式ノ願書ニ戸籍及履歴書ヲ添ヘ本貫地方廳ニ差出シ其添書ヲ得テ本縣ニ願出ニキモノトス

第三條　師範農家ハ本縣ノ命令又ハ指示ニヨリ移住士族ニ耕種ノ方法ヲ授ケ專ラ農業ニ慣熟セシムルヲ務ムヘキモノトス

第四條　前條ニ揭クル外凡テ移住士族取扱規則ヲ遵守スヘキモノトス

願書式（戸籍調ハ一般ノ例規ニ倣フヘシ）

明治十六年壯農商務省第十四號御達ニ基キ師範農家トシテ御縣下ヘ移住仕度尤御規則ハ勿論御命令等屹度遵守可仕候間御許可被成下度別紙戸籍及履歴明細書相添此段奉願候也

年號　月

何府縣下何國何郡區何町村何番地平民

札幌縣令某殿　何　某印

前書出願之趣相違無之候也

乙第五十七號

戸長　何　某印

明治十七年三月十五日

郡區役所

縣下人民ヨリ各地産出ノ種苗取寄方申出候節ハ縣廳ニ
リ其府縣ヘ照會致來候處右ハ彼是手數ヲ要スルノミナ
ラス爲ニ期節ヲ誤ルノ愁無キ能ハス依テ爾後郡區役所
ヨリ直ニ産地府縣勸業課又ハ郡區役所ヘ照會致シ苦シ
カラス且各府縣勸業課又ハ郡區役所ヨリ直ニ請求候節
モ右同樣可取計此旨相達候事

明治十七年五月三日

乙第八十一號

郡區役所

本年本縣甲第二十七號ヲ以テ漁獵器具使用屆之儀布達
候ニ付テハ右使用方屆出候節ハ其利害得失等ヲ審案レ
意見書ヲ添可差出此旨相達候事

明治十七年六月五日

郡區役所

戸長役場

乙第九拾一號

今般農務統計事項別紙之通相定候條該手續ニ據リ報告
スヘシ此旨相達候事　（附錄略）

但明治十年乙第二百八號普通物産調特有　同十一年乙第三十八

號牧牛馬調同十四年乙第百九十九號被害田畑反別調達及ヒ右ニ屬スル追達等ハ總テ廢止ス

農務統計事項報告手續

第一條　郡區役所ニ於テハ此手續ニ據リ部內農事（水產事業ヲ含ム）統計表ヲ製シ本縣ヘ報告スルモノトス

第二條　調査事項及ヒ表式（附錄ニヲ詳ナリ）定ムルコト左ノ如シ

第一項　氣候

各郡區役所ニ於テハ附錄第一号ニ倣ヒ毎月調査シ次月十五日マテニ報道スヘシ

第二項　土地

耕作地、自作地、小作地、被害田圃、荒地、開墾地及ヒ牧場ハ附錄第二号ヨリ九号マテニ倣ヒ毎年調査シ次年二月中ニ報道スヘシ

第三項　戸口

專業、兼業ノ農民、漁民及ヒ自作人、小作人ハ附錄第十号ヨリ第十二号マテニ倣ヒ五年毎ニ一月一日ノ戸口現在數ヲ調査シ五月中ニ報道スヘシ

第四項　陸產物

左ニ揭クル品類ノ產額等ハ附錄第十三号ヨリ十六号

マテニ倣ヒ毎年調査シ次年二月中ニ報道スヘシ但米、麥、大豆、綿、菜種、甘蔗、蘆粟、烟草ノ概況ハ附錄第十七号第十八号ニ倣ヒ麥、菜種ハ其年五月烟草、蘆粟ハ九月米、綿、大豆ハ十月甘蔗ハ十一月中ニ報道スヘシ

米　大小裸麥　粟　黍　稗　蕎麥　粉黍　大豆　小豆　蠶豆　豌豆　甘薯　馬鈴薯　蘿蔔　實綿　大麻　苧麻　藍葉　菜種　甘蔗　蘆粟　葉烟草　藺　楮　皮　雁皮　結香　生蠟　漆汁　地益

第五項

左ニ掲グル品類ハ附錄第十九号ニ倣ヒ毎年其耕作ノ損益ヲ調査シ次年二月中ニ報道スヘシ

米　陸米　大小裸麥　粟　黍　稗　蕎麥　蜀黍　大豆　小豆　蠶豆　豌豆　甘薯　馬鈴薯　蘿蔔　實綿　大麻　苧麻　藍葉　菜種　甘蔗　蘆粟　葉烟草　藺

第六項　蠶茶

茶園桑圃ノ畝別ハ附錄第二十号第二十二号ニ倣ヒ五年毎ニ調査シ次年五月中ニ報道シ製茶、繭、製絲、蠶卵紙産額ハ附錄第二十一号第二十三号ニ倣ヒ毎年調査シ次年二月中ニ報道スヘシ但其概況ハ附錄第二十四号

第二十五号ニ倣ヒ春夏蠶ハ其年七月秋蠶ハ九月製茶ハ六月中ニ報道スヘシ

第七項　製糖

各種製糖ハ附錄第二十六号ニ倣ヒ毎年調査シ次年二月中ニ報道スヘシ

第八項　蜜蜂

附錄第二十七号ニ倣ヒ毎年調査シ次年二月中ニ報道スヘシ

第九項　畜産

牛馬羊豚ハ附錄第二十八号ヨリ第三十一号マテニ倣ヒ毎年十二月三十一日ノ現在數ヲ調査シ又傳染病ニ罹リタルモノハ附錄第三十二號ニ倣ヒ一年間ノ數ヲ調査シ各次年二月中ニ報道スヘシ

第十項　漁業、漁場

鯨、鰮、鯡、鰹、烏賊、鮭、鱈、鱒ノ漁業ハ附錄第三十三號ヨリ三十六號マテニ倣ヒ漁場及ヒ漁船ハ附錄第三十七號第三十八號ニ倣ヒ毎年調査シ次年二月中ニ報道スヘシ

第十一項　水産物

左ニ掲クル品類ノ養殖及ヒ産出額等ハ附錄第三十九

號ヨリ四十二號マテニ倣ヒ毎年調査シ次年二月中ニ報道スヘシ

鯉　鮭　鱒　鱉　牡蠣　海鼠　海苔（以上養殖）　乾魚

鹽魚　鰹節　鰯　乾鮑　海參　鯡　鰊　鰮　鹽引鮭

鱈　鹽鱈　昆布　石花菜　海苔　和布　鹿尾菜

海藻　乾鰒　搾滓　魚油（以上產出）

第十二項　漁業收益

河、海、湖、沼ノ捕魚、採藻ニ係ル數量價格ハ附錄第四十三號ニ倣ヒ毎年調査シ次年二月中ニ報道スヘシ

第十三項　海鹽

鹽田、鹽濱ノ段別及ヒ製造額等ハ附錄第四十四號第四十五號ニ倣ヒ毎年調査シ次年二月中ニ報道スヘシ

乙第百四十四號

明治十七年八月十六日

郡區役所
戸長役場

今般勸業委員及ヒ勸業會準則諭達候付テハ各地區々ニ渉ルノ弊ナカラシメン爲メ左ノ各項ヲ擧ケ爲心得此旨相達候事

一勸業委員ノ設置ハ各町村ノ大小實地ノ景況ニ依リ單立若クハ聯合ヲ以テ其區域ヲ定ムルモノトス但受持

部ノ甚廣大ニ失セサランコトヲ要ス

一勸業委員ハ各町村凡一名ヲ目的トスト雖トモ其町村ノ廣狹ニヨリ一町村ニ數名ヲ置キ或ハ聯合町村ニ一名若クハ數名ヲ置ク等其適宜ニ任ス

一町村若クハ聯合町村ニ於テ勸業委員數名ヲ設クルトキハ農商工各部ニ分チ撰擧スルモ妨ケナシ

但部類ヲ分チ撰擧スルモ總テ勸業委員ト稱スヘシ

一勸業委員ノ撰擧ト同時ニ豫備員トシテ正員ノ二倍以内ヲ撰擧スルコトヲ得

一勸業委員病氣或ハ事故アリテ其職ヲ辭スルトキハ豫メ撰擧シタル豫備員ヲシテ其職ヲ繼カシムヘシ而シテ其任期ハ正員就職ノ日ヨリ起算スルモノトス

一農業會商業會工業會勸業會及同業會ハ名稱ヲ一ニシテ檢束スルモノニアラス譬ハ農業會中ニ農談會アリ商業會中ニ商法會議所アリ仝業會中ニ單一種ノ同業會或ハ各種同業會ヲ聯合シタル同業會アルノ類トス

一勸業委員ノ人員撰擧方法處務順序及ヒ給額規則ハ凡ソ左案ニ準據スヘシ

勸業委員人員撰擧方法處務順序及ヒ給額規則

第一章　人員

第一條　勸業委員ノ人員ハ幾名トス

第二章　撰舉

第二條　勸業委員ハ本村區町內ニ本籍ヲ定メ農商工事ニ慣熟通曉シ且平素品行方正ニシテ其名望ト相當ノ財産トヲ有スルモノヲ撰舉スヘシ

第三條　勸業委員ヲ撰舉スルヲ得ヘキモノハ本籍ト寄留トノ別ナク總テ本村區町內ニ住居スルモノニ限ル

第四條　勸業委員正員撰舉ノ際豫備員幾名ヲ撰舉ス

第五條　勸業委員ノ撰舉會ヲ開カントスルトキハ豫メ會場及會日ヲ定メ村區町內ニ公告スヘシ

第六條　區長戸長ハ豫定會日ヲ公告スルト同時ニ撰舉人ニ向テ投票用紙ヲ配布スヘシ

第七條　撰舉人ハ豫メ區長戸長ヨリ付與シタル投票用紙ニ被撰人及自己ノ住所姓名ヲ詳記シ之ヲ會場ニ出スヘシ區長戸長ハ撰舉人ノ面前ニ於テ之ヲ開緘シ其投票ノ最多數ヲ得タルモノ幾名ヲ當撰人トシ同數ナラハ年長ヲ取リ同年ナラハ闔ヲ以テ之ヲ定ム

但投票ハ代人ニ托シ差出スモ妨ケナシ

第八條　投票畢ルノ後區長戸長ハ當撰人名（正員豫備員共）簿ヲ製シ縣令ニ上申スヘシ但當撰人其撰ヲ辭スルトキハ順

次多數ヲ得タルモノヲ取ル

第三章　處務順序

第九條　勸業委員ハ請持部内農商工事ノ上進ヲ圖リ縣廳及ヒ郡區役所ヨリ指揮スル所ノ事務並ニ戸長ヨリ協議ノ事務ヲ處辨スヘシ

第十條　勸業委員ハ本縣諭達勸業委員及勸業會准則第五條ニ掲クル所ノ諸項及左ノ各欵ニ注意シ其景況等時々戸長役場ヲ經テ郡區役所ニ報告スヘシ

第一欵　氣候節ヲ失ヒ冷熱俄ニ至リ或ハ風雨水旱等ニ付作物災害ノ景況

第二欵　植物ノ蟲害動物ノ病患及其蔓延傳染ノ徵候

第三欵　作物ノ生育及豐凶

第四欵　新ニ試驗セル植物類生育ノ景況及需用ノ適否

第五欵　種子苗木類交換ノ方法

第六欵　從來粗惡ナリシ物産ヲ改良セシモノ

第七欵　農業上ニ於テ新ニ一種ノ事業ヲ興セシモノ

第八欵　從來廢業ニ屬セシ遺利ヲ拾收シ新ニ一物産ヲ興セシ類

第九欵　養蠶製糸製茶牧畜等ノ景況

第十款　農具ヲ改良シ水力火力及牛馬力等ヲ用ヒ其勞費ヲ減シタル類

第十一款　釀造物改良及盛衰

第十二款　海外輸入品ニ代用スヘキ物産及新ニ輸出シタル物産ノ種類

第十三款　諸會社ノ盛衰

第十四款　急劇ナル物價ノ變動

第十五款　特有物産ノ價格並ニ其販路

第十六款　商業上ノ舊弊ヲ矯正セシモノ

第十七款　新ニ販路ヲ開キシモノ

第十八款　工業場ノ盛衰

第十九款　工業品ノ産額及其販路

第二十款　工業上ノ舊弊ヲ矯正シ又ハ其製法等ヲ改良セシモノ

第二十一款　農工業上ノ新發明ニ係ルモノ

第四章　給額

第十一條　勸業委員ノ給料ハ一ケ月金幾圓ト定メ村區町内ノ區町村費ヲ以テ支辨スルモノトス

乙第二百十五號

明治十七年十二月二十日

郡區役所

商工務通信規則左ノ通相定メ來ル明治十八年一月ヨリ實施候條此旨相達候事

戸長役場

（通信事項表ハ略ス）

第一條　商工ノ盛衰消長ヲ詳悉スヘキ爲生産消費ノ數量等別紙通信事項ニ據リ調整スヘシ

第二條　通信ヲ分チ定期臨時ノ二種トス其定期報トハ通信事件中ニ特ニ報告期限ヲ定メタルモノ臨時報トハ通信事件中報告期限アルト否トニ關セス臨時報告ヲ要スヘキモノヲ云フ

第三條　郡區書記ヲ以テ通信委員ニ充テ其姓名農商課ニ通牒スヘシ

但變換ノ節ハ其時々通牒スヘシ

第四條　調査順序ハ戸長役場ニ於テ取調郡區役所ヘ差出スヘシ郡區役所ニ於テ之ヲ編製シ縣廳ヘ報道スヘシ

但報道期限ハ別紙期限表ニ據ルヘシ

第五條　郡區通信委員ニ於テ質問ヲ要スル事件アルトキハ其事由ヲ詳記シテ農商務省主務局ヘ質問スルヲ得

第六條　前條ニ依リ郡區通信委員ト主務局ノ間ニ於テ文書ノ往復ヲ爲シタルトキハ其寫ヲ添ヘ通信委員ヨリ

農商課ヘ申報スヘシ

商工務通信事項報道期限表

表名	戸長役場ヨリ郡區役所ヘ報道期日	郡區役所ヨリ縣廳ヘ報道期日	縣廳ヨリ農商務省ヘ報道期日
商工第一項 港灣河岸地輸出入商品表	次月十日	次月二十日	次月中
仝 第二項 都邑商品ノ聚散表	仝	仝	仝
仝 第三項 都邑物價表	仝	仝	仝
仝 第四項 外國貿易品相庭並在高表	仝	仝	仝
仝 第五項 常用品相庭表	仝	仝	仝
仝 第六項 諸會社表	一月二十日	二月十日	二月中
仝 第七項 商人營業區別表	仝	仝	仝
仝 第八項 諸市場表	仝	仝	仝
仝 第九項 商家傭人給料表	仝	仝	仝
商務第十項 商用地圖	一月二十日	二月十日	二月中
仝 第十一項 商況報告	次月十日	次月二十日	次月中
工務第一項 工場表	一月中	二月中	三月中
仝 第二項 品目表	仝	仝	仝
仝 第三項 職工賃錢表	仝	仝	仝
仝 第四項 職工人員表	仝	仝	仝
仝 第五項 工業景況	上半期分七月中 下半期分一月中	八月中 二月中	九月中 三月中

布達類聚

明治十六年四月太政官第拾号布達北海道轉籍移住者渡航手續細節別紙之通心得ヘシ

右告示候事

（別紙）

一　渡航ノ保護ヲ出願スル者ハ別紙願書々式ニ依ルヘシ

二　荷物運送官費支給ノ制限外ニ渉ルノ場合ト雖モ強テ荷造ノ區別ヲ要セス但其制限外ニ渉ル分ノ運賃ハ其乘込タル船ニ自費直拂セシムヘシ（參考一尺立方ヲ一才ト稱シ百才ヲ以テ一噸ニ比例ス）

三　渡航者ノ乘込タル船横濱ニテ若滯船日ヲ重ヲ三菱會社共同運輸會社運漕社船ノ中ニテ繼替乘船スヘキノ便利アル場合ニ於テハ當該乘組船長又ハ取締役ノ加印ヲ以テ繼替乘船ノ義ヲ本省ヘ願出ルトキハ之ヲ認可シ更ニ乘船表ヲ下附スヘシ

四　移住地最近ノ港灣ヨリ移住地ニ到ル距離三里以上ニ渉ルモノヽ手當金ハ移住地ノ管轄廳於テ其里程相當ノ金額ヲ給與スヘシ

五　年度内經費ノ都合ニ依リ翌年度迄渡航保護願ヲ差止ルヿアルトキハ官報及東京日々新聞報知新聞上ニ於テ其旨五日間廣告スヘシ

北海道轉籍移住渡航保護願

何府縣何國何郡何町村第何番地
族籍職業（附籍ノ者ナレハ某兄弟叔父甥等ノヿヲ記スヘシ）

一荷物何箇（但何才（或ハ何歳）　何　某
（或ハ云々ニ付手荷物外携帶品無之候）

年號何月出生
年齡何年何ヶ月

妻　何　某
仝　上
長男女　何　某
仝　上

私儀是迄何々業ヲ營ミ罷在候處今般北海道何縣何國何郡（町村名ノ群カナルモノハ之ヲ記スヘシ）へ送籍移住シ何々業ニ就事仕度志願ニ付何港ヨリ何港ニ至ル渡航ノ義御保護被成下度別紙附屬書相添此段奉願候也

明治何年何月

右　何　某印
右村
戸長　何　某印

農商務卿宛

告第百四十四號

本年肰本縣告第七十號告示北海道轉籍移住者渡航手續

明治十七年十一月八日

細節第二項中參考一尺立方ヲノ下一才ト稱シヲスト改正シ以下削除相成候條此旨心得ヘシ

右告示候事

○山林

明治十七年三月六日

甲第十一號

民有森林中國土保安ノ場所保護ノ儀本年二月太政官第三號ヲ以テ改正御達相成候付テハ取調ノ都合モ有之候條民林中ニ於テ施ス事業ハ都テ六ケ月前詳細取調圖面相添伺出ツヘシ

右布達候事

明治十七年三月六日

乙第五十號

郡區役所

民有森林中國土保安ノ場所保護ノ儀本年二月太政官第三號ヲ以テ改正相成候付本年三月當縣甲第十一號及布達候條右伺出候節ハ實際調査ノ上差支有無與書ニ記載差出スヘシ此旨相達候事

明治十七年七月廿一日

乙第百三十七號

郡區役所

森林ニ係ル諸收入金上納順序別紙之通相定候條此旨相達候事

上納順序

第一條　收入金ハ納人ヨリ甲號書式ノ納金証書ニ現金ヲ添ヘ國庫金取扱所ヘ預ケ入其領收ノ証印ヲ得テ之ヲ郡區役所ヘ上納セシムルモノトス

第二條　郡區長ハ前條納証書ヲ得タルトキハ乙號科目ニヨリ丙號書式ノ上納証ヲ添ヘ三日以内ニ之ヲ本縣廳ヘ送納スヘシ

第三條　半年度毎ニ收入スルモノモ納金手順ハ第二條ニヨルモノトス

第四條　半年度總計表ハ丁号書式ニヨリ取調差出モノトス

第五條　納金過誤ヲ發見シタル時ハ其事由ヲ具シ其金員預ケ入ノ月日番號等詳ニ認メ請求スヘシ

甲號　用紙適宜　堅四寸五分　横三寸三分位

國庫金取扱所預リ証印

一金何程

但何々

右現金何月何日何地國庫金取扱所ヘ相預ケ上納候也

年号月日

何郡何區何町何村何番地
納人何之誰印

乙號

收入科目表

森林諸收入科目表

大科目	小科目	細節
森林收入	森林諸拂下代	樹竹林地拂下代
		立木竹拂下代
		土石料
		損木竹拂下代
		雜種拂下代
布達類聚		取料、鳥獸ノ類其他諸雜品年季拂下一時拂トモ
	森林諸貸下料	樹竹林地貸下料
		年期貸下一時貸下トモ
雜入	賦贖追徵金	拂下代
		盜伐木、誤伐木、擅伐木、ノ拂下代
	賠償金	盜伐木、誤伐木、擅伐木、官林濫用ノ賠償金及年賦徵收ノ分トモ
	違約金	
雜收		年度後追納

建築用木竹、電線測量其他障碍木竹、雜木、立木、年賦拂下代トモ

年期拂下一時拂下トモ

下草、小木竹、末木、根株、桑、楮、苧、櫨、棧葉、木皮、竹皮、秣、葭、萱、菌、筍、藍、樹實、蔓草、落葉、防風、氷

六百

諸貸下料、諸拂下代、賦贖追徵金ノ年度後追納

科目印

（以下一厳毎ニ此例ニ倣ヒ小科目印ヲ押捺スヘシ）

丙号一

第何號

年號何年度森林收入金上納証　（經常收入ノ分）

但納金證書何葉

一金

内譯

何郡何村字何
何等官林

金

此立木（障碍木枯損木竹枝竹石或ハ何々）何本（何東何個）

是ハ何年何月何日拂下（處分）方伺何年何月何日御許可又ハ何年何月何日丙第何号御達或ハ郡區限處分何月何日御届ノ分

何郡
區何町
村

納人　何之誰

何郡何村字何
何等官林

金

此貸地（下草落葉土石其他柴草何々）一ヶ年料金　但何年上半期（何ヶ月）分

是ハ何年何月何日何ヶ年期何年何月ヨリ何年何月マテ貸下（拂下）又ハ續年期或ハ名前替ノ儀丙第何号御達又ハ御指令

（以下種類ヲ異ニスルモノハ一々列記スヘシ）

（官林地又ハ立木等還禄者ニ拂下代正金上納ノ例）

何郡何村字何
何等官林

反別

此相當代價金

此半價金

何郡
區何町
村

納人　何之誰

此九ヶ年一割利引金
是ハ何年何月何日御下方丙第何号御達ノ分
右上納候也
年　月　日
縣　令　宛
何郡區長　姓　名　印

丙号二
第何號
年號何年度歸入金上納証（臨時收入ノ分）
一金
但納金程書何通
内譯
何郡何村字何何等官林
何郡區何町村

科目印
二印ニ同

布達類聚

六百二

金
此登録ニ伐木何本
是ハ何年何月何日賠償金（拂下）處分御指令又ハ丙第何號御達ノ分
（以下隨類ヲ異ニスルモノハ一々列記スヘシ）
右上納候也
年　月　日
縣　令　宛
何郡區長　姓　名　印

納人何之誰

半年度總計表
一金
何郡村
何之誰納

是ハ何月幾日付當郡區上納証第何號ヲ以上納ノ分

一金　何郡村何之誰納
是ハ

一金　何郡村何之誰納
是ハ

總計金何程

右ハ何年度上半年度森林収入上納總計相違無之候也
年號月日

縣令　何郡區長　姓名印　宛

乙第百七十六號　明治十七年十月六日

本年七月乙第百三十七號達森林收入上納順序中如左加除候條此旨相達候事　郡區役所

一第一條中(國庫金取扱所ヘ預ケ入其領收ノ証印ヲ得ヲ之ヲ)ノ廿一字ヲ削ル

一第二條中前條ノ下ヘ(現金並ニ)ノ四字ヲ加フ

○公債

甲第五號　明治十七年二月七日

諸公債證書所持ノ者ハ左圖ノ如ク印鑑ヲ作リ戸長ノ奥書ヲ得タル書面ヲ以テ届出ヘシ尤モ改印スル者ハ亦更

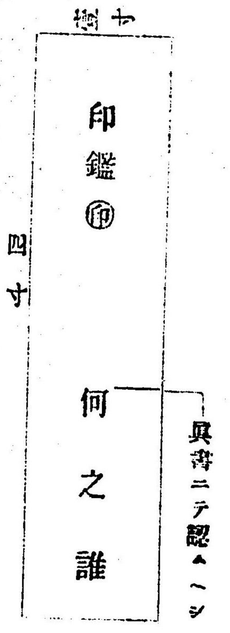
ニ届出ヘシ

但現今所持セサル者將來讓買受ケタルトキハ本文同

様タルヘシ

右布達候事

用紙美濃白紙



甲第六號　明治十七年二月七日

諸公債證書賣買讓渡等ノ届書式客歳十二月甲第九拾七號ヲ以テ布達及ヒ候處第四號書式ヲ除クノ外戸長奥書例文以下同之ノ十字ヲ削除シ第一號書式朱書後見人及ヒ財産保管人ハ親戚ノ連署ノ下ヘ「并ニ戸長奥書例文以下同之」ノ十二字ヲ追加ス

右布達候事

○船舶

甲第二拾號　明治十七年四月十一日

客年九月本縣甲第六十九號ヲ以及布達候船鑑札釘付箇

所左之通改正ス

一船稅規則第七條ノ日本形積石五十石未滿ノ船幷ニ艀漁船小廻船遊船ノ本鑑札釘付箇所及ヒ免稅印烙記ノ箇所ハ該船舶艫外部後面ニ爲スヘシ

右布達候事

乙第百五十七號　　明治十七年九月一日

郡區役所
戸長役場

汽船公稱馬力算定方法左之通被定候條此旨相達候事

公稱馬力算定方法

第一冷汽器ヲ備ヘサル機關ノ公稱馬力ハ氣筩吸鍔ノ徑ヲ英寸ニテ測リ之ヲ自乘シ得數ヲ拾個ニテ除シタルモノ

但氣筩二個以上ヲ備フルモノハ本法ニ從テ一個毎ニ之ヲ求メ其得數ヲ相合セタルモノ

第二冷氣器ヲ備フル機關ノ公稱馬力ハ氣筩吸鍔ノ徑ヲ英寸ニテ測リ之ヲ自乘シ得數ヲ三拾個ニテ除シタルモノ

但氣筩二個以上ヲ備フルモノハ本法ニ從テ一個毎ニ之ヲ求其得數ヲ相合セタルモノ

第三冷氣器ヲ備ヘサル聯成機關ノ公稱馬力ハ其各氣筩吸鍔ノ徑ヲ英寸ニテ測リ各之ヲ自乘シテ相加ヘ其得數ヲ拾個ニテ除シタルモノ

但氣筩二具以上ヲ備フルモノハ本法ニ從テ一具毎ニ之ヲ求其得數ヲ相合セタルモノ

第四冷氣器ヲ備フル聯成機關ノ公稱馬力ハ其各氣筩吸鍔ノ徑ヲ英寸ニテ測リ各之ヲ自乘シテ相加ヘ其得數ヲ三拾個ニテ除シタルモノ

但氣筩二具以上ヲ備フルモノハ本法ニ從テ一具毎ニ之レヲ求其得數ヲ相合セタルモノ

告第四十二號　明治十七年四月十一日

秋田縣羽後國由利郡金浦村ノ内字港島ヘ同地人民自費燈臺建築右費用消却之爲本月二十日以後入港ノ船舶ヨリ左記之通燈費取立之儀許可候旨該縣ヨリ通知アリ

右告示候事

一積石五拾石未滿　壹艘ニ付　金十五錢
一同五拾石以上百石未滿　同　金貳拾錢
一同百石以上　同　金貳拾五錢

但漁船ハ此例ニアラス

告第四十六號　明治十七年四月二十四日

客年肥當縣告第百拾號告示福岡縣下筑前國博多私築燈臺點燈費取立方法中本月十一日ヨリ左之通改正之儀許可候旨同縣ヨリ通知アリ

右告示候事

一西洋形蒸氣船及帆走船　壹噸ニ付金壹錢貳厘

一日本形船五拾石以上　壹石ニ付金壹厘五毛

一同五拾石未滿　壹艘ニ付金壹錢五厘

告第八十三號　明治十七年六月三十日

福岡縣筑後國山門郡中島川田尾筋ヘ航路目表之爲水標木ヲ建設シ來ル明治二十三年迄入港船舶ヨリ左記之割合ヲ以右費用消却金取立之儀許可候旨該縣ヨリ通知アリ

右告示候事

一定繫漁船　壹ヶ年壹艘ニ付　金三錢

一同七反帆以下船舶　仝　仝　金五錢

一同八反帆以上同　仝　仝　金八錢

一臨時入船七反帆以下　壹度壹艘ニ付　金三錢

一同八反帆ヨリ九反帆迄　仝　仝　金五錢

一同十反帆以上　仝　仝　金八錢

告第八十八號　明治十七年七月十二日

日本形船舶出入港ノ節届出方別紙ノ通布達相成候旨石川縣ヨリ通牒有之候付テハ警察上取締ノ爲メ臨時船中乘組人等ヲ檢査相成ルヘキ場合モ有之候間右樣心得ヘシ

右告示候事

（別紙）

甲■六十七番

日本形船舶（漁船又ハ小回リ船ノ類ヲ除ク）出入港ノ節ハ別紙雛形ニ照準該船主船名及石數等ヲ詳記シ其宿主ヨリ船頭連署ニテ（船宿ニ寄ラサル分ハ其船頭ヨリ）所轄警察署分署又ハ交番所ヘ可届出其距離

貳里以上ノ場所ハ浦役場ヘ届出ルモ妨ケナシ此旨布達候事

但出港ノ節ハ其前日入港ノ節ハ即日届出ヘシ

明治十七年六月十二日　石川縣令岩村高俊

別紙雛形

（出入）港御届

一船主　何府縣何郡區何町村族籍　氏　名

一船名　何々丸トカ

一船頭　何府縣何郡區何町村　氏　名年齡

一石數　何石積

一繫場　何港又ハ何濱

乘一水夫　何府縣何郡區何町村氏名
年齡何、、、、、、、、

右（何府縣何郡區何々港ヶ年月日出帆本日入港
何府縣何郡區何々港ヘ向ヶ何日出港）仕候間別紙積荷目錄及
客人名相添此段御屆申上候也

何郡區何町村何番地族籍
船宿營業　氏　名　印

年　月　日

右船頭　氏　名　印

石川縣令姓名殿

積荷目錄

一何々　何石
一何々　幾箇
一何々　何々

乘客人名

何府縣何郡區何町村何番地族籍
氏　名　年　齡
何、、、、、、、、、、、、、、、

右之通候也

年　月　日　　船頭氏　名印

○諭達

明治十七年二月二十四日

北海道ヘ移住志願者心得方之義ニ付テハ明治十五年本縣乙第百六十八號達十六年四月農商務省號外諭達並ニ同年本縣甲第六十八號布達之趣モ有之然ルニ客歳十月中廣島縣下ヨリ札幌縣下岩内郡ヘ移住セシ四拾余戸ノ者ノ如キ中ニハ衣食ノ準備ナク時已ニ降雪ニ際シ非常ノ困難ヲ極メ目下ノ糊口ニ苦シムモノ少カラサル狀態ニ有之是等ハ畢竟前顯諭達又ハ達ノ旨趣ヲ心得サルヨリ出ルモノニシテ實ニ憫然ノ至ニ候間將來該道ヘ移住志願ノ者ハ前文諭達中第六第七第十四ノ各項ニ縷述有之通移住スヘキ地ト季節トヲ撰フハ一大緊要ニシテ爲[illegible]起業ノ難易ト就産ノ遲速ニ關スル尠カラス已ニ前段廣島縣移民ノ如キハ偏ニ之ヲ撰ハサルヨリ受クルノ困難ニ外ナラス候條將來可成丈ケ如此困難ヲ受ケシメサル樣致度旨札幌縣ヨリ照會ノ次第モ有之候條移住志願者ハ篤ク注意可致尤客歳四月太政官第十號布達ノ手

續ニ依リ移住スル者ハ渡航保護出願指令書必ス携帶致候儀ト可心得此旨士族輩ヘ諭達候事

明治十七年四月五日

驛遞局貯金預方ノ儀ニ付而ハ追々及諭達置候次第有之候處逐年預高增殖セシハ要スルニ該旨趣貫徹候故ニ可有之然リト雖モ山村僻邑ニ至リテハ斯ノ安全ナル貯蓄法アルヲ知ラサルモノナキヲ保シ難シ故ニ近來各地ニ貯蓄金預所增置相成且利子ニ於テモ普通貸借上ニ比シ甚シキ差違無之加之該預金ハ一已人ノ餘財ニ限ラス共同所有之金員即チ寺院祠堂金ノ類ノ如キヲモ預ケ得ヘキハ勿論ノ儀ニ付右等ノ次第尙更篤ト可相心得依而驛遞局ニ於テ調製相成候貯金規則ノ要領並ニ利息表相添此旨諭達候事

貯金規則の要領并利息表

貯金規則の要領并利息表

緒言

人誰か老後に至りても壮年の時の如く強健なりと思ふものあらんや、又誰か世に疾病盗火の難あしと思ふものあらんや、いやしくも老後の衰弱い免れかたく、又時として疾病盗火の難も遁れがたきことを知らば壮年無事の日において其豫備をなさゞるべからす、然るに世間往々此理りに闇く、唯今日あるを知りて明日あるを知らず、從て得たい從て散し、毫も永遠のいかりことをなさず、適節倹貯蓄を爲さんとするものあるも、或い寄托其所を得ずして、狡猾者の手に落ち、其貯蓄を水泡に歸せしめ、又或い些少の金を積立るを煩はしとなし、所謂塵積りて山を爲すといふ理りを思はず、遂に金錢い貯蓄し得べからざるをもつて常談となすに至る、これらの人々、若し疾病其他の災害に遭ひ、又い老衰廢職の時來れば、俄に凍餓困厄に陷り、竟に他人の累を爲す、實に歎いしき事

ならずや、故に富裕の者い姑く舍き、其他の人々常に心懸け、あるへく日々の費用をはぶき、應分のたくはへをなして確實ある所へ預け置き、將來の慮をなす事肝要なり、試に思へ、今いかゝる人にても、心懸け次第にて一日に壹錢若くは貳錢を贏して一月に五拾錢乃至六拾錢を貯蓄するは敢て難きにあらさるべし、假りに其人をして毎月五拾錢を預けさせ、これに六ヶ月毎に年七分二厘の利息を加へ、三十年を經る時い元金百八拾圓利金四百四拾壹圓拾六錢五厘にして合金六百貳拾壹圓拾六錢五厘となる、若し更に五年を加へ、三十五年に及ぶ時い、元金貳百拾圓利金七百拾圓五拾七錢八厘となるなり、瑣少の金錢にてもこれを積み置く時い斯る巨額の資金を得へし、節儉の餘德實に大ならずや、又人たるも乃、男を舉れば之に家產を授け、女を舉れば之に良婿を求めざるものあらんや、其兒を舉るの時より、毎月壹圓を預け滿二十年に達する時い、元金貳百四拾圓利金貳百八拾六圓八拾四錢八厘にして合金五百貳拾六圓八拾四錢八厘となるへし、下等社會にして此貯金ある時は、粗ほ一家の產業を營むに足り、又嫁娶の儀も稍整ふべし、別に心思を勞せず、危險を踏まずして、此幸福を享るにあらずや、當局貯金預の法い、僅小の金高にても安全に積立置き、これに利息を加へて漸次巨多の金額に至らしめんとするにあり、既に此法を開設してより、早く其實益あるを悟りて貯金を爲すもの數萬人に及びたりといへども、いまだ前に述たる將來の慮を爲さぬならんといふ理りと、此貯金法の實益あるとを知らざる人も多ければ、今主として夫らの人々にこれを知らしめんがため、貯金規則の要領、並利息の計算表を左に掲ぐ、

明治十六年九月

驛遞局

規則要領

一驛遞局貯金い何人にても一人に付一度に拾錢以上又一日に五拾圓迄を預るへし

但端數は厘位迄に限るへし

一貯金の拂戻しを願ふ人は貯金預所に至り其旨申出べし

一貯金の利子は一ヶ年に付元金の百分の七分二厘の割合にして喩へは金拾圓を預くれば一ヶ年に七十二錢六ヶ月に三十六錢一ヶ月に六錢の利子を得へし

但拾錢に滿たさる端數には利子を附せず

一貯金預け人は始めて預け金をなしたる日より滿六ヶ月目毎に貯金通帖を驛遞局へ差出し原簿の突合せ利子の記入を受くへし

一利息は毎年六月十二月に區切り計算し元金へ組込むべし

一一度に五拾圓以上の金高を預け度ものは其都度驛遞局の認可を得て預け金をなすべし

一貯金預け人改名改印する歟又は住所を轉したる時は驛遞局へ屆書を差出すべし

但此書面へは所持の通帳の記號番號幷に通帳を渡せし預所地名を記載すべし

一貯金の儀に付驛遞局幷に貯金預所へ差出す書面は郵便税を免すべし

一貯金は驛遞局貯金預所の標札を掲けたる家にて取扱ふべし

利息表

金拾錢を日々に預くる時は一ヶ月の預け高凡り三圓にして一ヶ年間絶へず預くれば元金三拾圓となりて壹圓拾九錢五厘の利息を生ず左の第一表の如し

貯金の利子は六月十二月と二回に計算して元金に加ふるが故に更にまた利子を生じ年を經るに從ひ增殖の割合多くなりて左の第二第三表に掲ぐる金高とある其第二表は一回限りの預け金を數年間据置これに生する利息を示し第三表は毎月若干の預け金を爲し元金の蓄積と利息の增殖とを示す

第一表　一月ヨリ十二月迄預ケ金元利計算表

月次	預ケ金	利息
一月	三圓	○
二月	三圓	壹錢八厘
三月	三圓	三錢六厘
四月	三圓	五錢四厘
五月	三圓	七錢二厘
六月	三圓	九錢
計	拾八圓	貳拾七錢

元利合計拾八圓貳十七錢

月次	預ケ金	利息
越高	拾八圓貳拾七錢	
七月	三圓	拾錢九厘貳毛
八月	三圓	拾貳錢七厘貳毛
九月	三圓	拾四錢五厘貳毛
十月	三圓	拾六錢三厘貳毛
十一月	三圓	拾八錢壹厘貳毛
十二月	三圓	拾九錢九厘貳毛
計	三拾六圓貳拾七錢	九拾二錢五厘貳毛

元利合計三拾七圓拾九錢五厘

第二表　一度預ケシ金額數年間据置タル元利合計表

年度＼預高	一度拾圓預据置	一度三拾圓預据置	一度五拾圓預据置	一度百圓預据置
五年目	金拾四圓拾四錢壹厘	金四拾貳圓四拾五錢九厘	金七十圓七拾八錢五厘	金百四拾壹圓五拾九錢貳厘
十年目	金貳拾圓拾壹錢七厘	金六拾圓四拾五錢貳厘	金百圓七十九錢八厘	金貳百壹圓六十四錢
十五年目	金貳拾八圓六拾貳錢七厘	金八十六圓八錢四厘	金百四十三圓五拾四錢壹厘	金貳百八拾七圓拾六錢八厘
二十年目	金四拾圓七拾五錢貳厘	金百貳拾貳圓五拾八錢八厘	金貳百四圓四拾二錢八厘	金四百八圓九拾九錢六厘
二十五年目	金五拾八圓貳錢五厘	金百七拾四圓五拾七錢九厘	金貳百九拾壹圓拾四錢四厘	金五百八拾貳圓五拾錢貳厘

第三表　數年間每月預ヶ金元利合計表

年數	預高	每月拾錢宛	每月五拾錢宛	每月壹圓宛	每月三圓宛
五年目	元金六圓 利金壹圓拾五錢九厘 合金七圓拾五錢九厘	元金三十圓 利金五圓八十六錢四厘 合金三十五圓八十六錢四厘	元金六拾圓 利金拾壹圓七拾五錢四厘 合金七拾壹圓七拾五錢四厘	元金百八拾圓 利金三十五圓 合金貳百拾五圓三拾錢五厘
十年目	元金拾貳圓 利金五圓三拾六錢 合金拾七圓三拾六錢	元金三百六拾錢 利金貳拾六圓 合金八拾六圓九拾四錢二厘	元金百貳拾圓 利金五拾三圓 合金百七拾三圓九拾五錢六厘	元金三百六十圓 利金百六拾壹圓 合金五百貳拾壹圓九拾六錢四厘
十五年目	元金拾八圓 利金拾三圓八拾七錢四厘 合金三拾壹圓八拾七錢四厘	元金九拾圓 利金六拾九圓 合金百五拾七圓七拾九錢六厘	元金百八拾圓 利金百三拾九圓 合金三百五拾五拾貳錢壹厘	元金五百四拾圓 利金四百拾八圓 合金九百五拾八圓七拾三錢
二十年目	元金貳拾四圓 利金貳拾八圓五拾五錢五厘 合金五拾貳圓五拾五錢五厘	元金百貳拾圓 利金百四拾三圓三拾四錢壹厘 合金貳百六拾三圓三拾四錢壹厘	元金百四拾圓 利金貳百八拾六圓四拾四錢八厘 合金五百貳拾六圓八拾四錢八厘	元金七百貳拾圓 利金八百六拾圓八拾壹錢三厘 合金千九百八拾圓八拾壹錢三厘
廿五年目	元金三拾圓 利金五拾二圓九厘 合金八拾貳圓九厘	元金百五拾圓 利金貳百六拾圓九拾四錢貳厘 合金四百拾圓九拾四錢貳厘	元金三百圓 利金五百貳拾貳圓 合金八百二十二圓十三錢六厘	元金九百圓 利金千五百六拾六圓八拾三錢四厘 合金貳千四百六十六圓八拾三錢四厘
三十年目	元金三拾六圓 利金八拾七圓九拾五錢八厘 合金百貳拾三圓九拾五錢八厘	元金百八拾圓 利金四百四拾壹圓 合金六百貳拾壹圓拾六錢五厘	元金三百六拾圓 利金八百八拾貳圓 合金千二百四十二圓七十錢五厘	元金千八拾圓 利金貳千六百四拾八圓七拾八錢五厘 合金三千七百貳拾八圓七拾八錢五厘
三十五年目	金百拾七圓六拾六錢四厘	金三百五十四圓拾錢	金五百九十圓五拾六錢四厘	金千白八十壹圓五拾九錢五厘九
三十年目	金八拾貳圓六拾壹錢七厘	金貳百四拾八圓六拾三錢壹厘	金四百拾四圓六拾五錢三厘	金八百貳拾九圓六拾貳錢四厘

三拾五年目

元金四拾貳圓
利金百四拾壹圓
七拾錢壹厘
合金百八十三圓
七拾錢壹厘

元金貳百拾圓
利金七百拾圓
五拾七錢八厘
合金九百貳拾圓
五拾七錢八厘

元金四百貳拾圓
利金十四圓七拾三錢
四百貳拾壹
合金千八百四拾壹
圓七拾三錢

元金千貳百六拾圓
利金四千貳百六拾
六圓拾六錢四厘
合金五千五百貳拾
六圓拾六錢四厘

無號

明治十七年七月七日

區町村ニ勸業委員及勸業會ヲ設置スルハ勸業上要用ニ付客年肵太政官第十三號布達ニ據リ該准則別紙之通相定候條本則ニ準據設置スヘシ

右諭達候事

（別紙）

勸業委員及勸業會准則

第一章　勸業委員

第一條　勸業委員ハ區町村若クハ聯合町村ニ於テ勸業ノ事ヲ擔任シ及郡區長戸長ノ諮問ニ備フルモノトス

第二條　勸業委員ノ人員撰擧方法處務順序及ヒ給額等ハ區長戸長ニ於テ原案ヲ設ケ區町村會又ハ聯合町村會ニ於テ之ヲ評定シ縣令ノ裁可ヲ請クヘシ

第三條　勸業委員ノ撰擧方法ハ前條ノ如ク定ムト雖トモ時宜ニ據リ其要スヘキ人員ノ幾倍ヲ撰擧セシメ縣令之ヲ撰拔スルノ場合アルヘシ